

羅臼町 第9次社会教育中期計画

2024年度～2027年度
(令和6年度～令和9年度)



令和6年4月

羅臼町教育委員会

= 目 次 =

第1章 総論

第1節 計画策定の趣旨と基本的な考え方	・・・	1～2
---------------------	-----	-----

第2章 社会教育中期計画の目指すもの

羅臼町第9次社会教育中期計画の基本構造	・・・	3
---------------------	-----	---

羅臼町第9次社会教育中期計画全体図	・・・	4～5
-------------------	-----	-----

第1節 社会教育中期計画の重点	・・・	6
-----------------	-----	---

第2節 社会教育中期計画の重点目標	・・・	6～7
-------------------	-----	-----

第3節 ふるさと学習の推進のねらい	・・・	8
-------------------	-----	---

第3章 4カ年の重点事項

・・・ 9～11

第4章 現状と課題及び4カ年のアクションプログラム

SDGs 各ゴールの説明について	・・・	12～13
------------------	-----	-------

第1節 乳幼児（家庭）教育	・・・	14～21
---------------	-----	-------

第2節 少年教育	・・・	22～29
----------	-----	-------

第3節 青年教育	・・・	30～37
----------	-----	-------

第4節 成人教育	・・・	38～45
----------	-----	-------

第5節 高齢者教育	・・・	46～51
-----------	-----	-------

第6節 基盤整備（推進体制）	・・・	52～59
----------------	-----	-------

第7節 基盤整備（施設）	・・・	60～65
--------------	-----	-------

第8節 団体育成・指導者養成	・・・	66～71
----------------	-----	-------

資料編

羅臼町第9次社会教育中期計画策定委員会名簿	・・・	73
-----------------------	-----	----

専門部会及び事務局	・・・	74～75
-----------	-----	-------

策定スケジュール	・・・	76
----------	-----	----

第1章 総論

第1節 「計画策定の趣旨と基本的な考え方」

人口減少や少子高齢化をはじめとする急速な社会経済環境の変化や取り組むべき課題の複雑化の中であって、町民の主体的な参加による持続可能な社会づくり、地域づくりに向けて、社会教育はこれまで以上にその役割を果たすことが期待されています。

「人生100年時代」、「超スマート社会(Society5.0)^{※1}」に向けて社会が大きな転換期を迎える中、文部科学省は、国民一人一人が生涯を通じて学ぶことのできる環境の整備、多様な学習機会の提供、学習の成果が適切に評価され、それを生かして様々な分野で活動できるようにするための仕組みづくりなど、生涯学習社会実現のための取り組みを進めています。

平成30年12月に中央教育審議会がまとめた「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について(答申)」は、人口減少やコミュニティの衰退を受けて、住民参画による地域づくりがこれまで以上に求められる中、「『社会教育』を基盤とした人づくり・つながりづくり・地域づくり」が一層重要であるとしており、そのうえで、新たな社会教育の方向性として「開かれ、つながる社会教育」を提示しています。

羅臼町教育委員会では、自ら考え、主体的に判断し、行動できる人の育成を目指すため、また地域の特性を磨き活かした「ふるさと学習の推進」を重点とした「羅臼町第8次社会教育中期計画(令和2年度～令和5年度)」を令和2年3月に策定し、本計画に基づき、乳幼児教育から少年教育、青年教育、成人教育、高齢者教育、また基盤整備、団体育成に係る領域ごとに施策を展開してきました。

こうした中、本計画が最終年度を迎えることから、次の4年間を見据えて、また社会経済情勢の変化を捉えながら、町民が学びを通してまちづくり、地域づくりに主体的に関わっていくことを願って「羅臼町第9次社会教育中期計画(令和6年度～令和9年度)」を策定するものです。

【1】計画の名称

「羅臼町第9次社会教育中期計画」

【2】計画の期間

令和6年度～令和9年度(4年間)

※1「超スマート社会」とは、様々なニーズに対応しながらすべての人に質の高いサービスを提供して、年齢や性別、地域や言語といった障壁を乗り越えて誰もが活躍できる社会のこと。

【3】社会教育中期計画の性格

羅臼町第9次社会教育中期計画は、「羅臼町教育大綱」の具現化を図りながら今後4か年の方向性を示した計画です。

《重点》ふるさと学習（教育）の推進

《重点目標》シビックプライドの醸成

《重点事項》①地域と学校の連携・協働の推進

②生涯学習・社会教育の振興

③芸術・文化活動の推進

④安心・安全な教育施設の構築

【4】社会教育中期計画の構成

本計画は、下記の項目で構成します。

第1章 総論

第2章 社会教育中期計画の目指すもの

第3章 4か年の重点事項

第4章 現状と課題及びアクションプログラム

【5】社会教育中期計画の推進

本計画は、各関係機関への周知を図るとともに、密接に連絡調整を行い、町民の学習要求や生活・地域課題を把握しながら計画を推進します。各事業の充実や見直しは、毎年反省評価を実施していきます。

【6】計画の位置づけ

羅臼町第9次社会教育中期計画は、「羅臼町教育大綱」と「羅臼町第8期総合計画（令和5年度策定）」との整合性を図りながら推進します。

【7】SDGs との関係

SDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)は、2030年までに達成すべき国際社会共通の目標であり、持続可能な世界を実現するための包括的な17のゴールと、細分化された169のターゲットが掲げられ、その実現に向けた取り組みが広がっています。

本計画では、17のゴールのうち、主にゴール4「質の高い教育をみんなに」において「全ての人々への包括的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」の目標実現に寄与するものですが、17のゴールは相互に関連していることから、関連する他のゴールについても意識して取り組みを推進していきます。

第2章 社会教育中期計画の目指すもの

羅臼町第9次社会教育中期計画の基本構造

羅臼町教育大綱

◆羅臼町民憲章

わたくしたちは、雄大な知床連峰と、オホーツクの海原の大自然にはぐくまれた、羅臼の町民です。

- 一、自然を愛し、先人の強い意志をうけつぎます。
- 一、健康で、明るく楽しい家庭をつくります。
- 一、教養を高め、豊かな情操を育てます。
- 一、仕事に誇りをもち、はたらく喜びに生きます。
- 一、子どもたちの夢と、若い力を育てます。

<羅臼町第8期総合計画>
(令和6年度～令和13年度)

★将来テーマ

人・まち・自然いきいき 未来創生
～魚の城下町 らうす～

★基本方針テーマ

自助・公助・共助による協働のまちづくり
～今できること、今こそやるべきことへの挑戦～

◆羅臼町教育目標

ふるさと羅臼の躍進を創造し いきいきと逞しく行動する 心豊かな町民の育成

◆羅臼町が目指す教育の基本方針

●自然豊かな北の大地で、世界を見つめ、自立の精神にあふれ、自らの夢に挑戦し、実現していく人を育む

▶知床羅臼町の豊かな自然、独自の歴史や文化への理解を深めながら、社会の変化に対応し、生涯にわたって生き抜く力を身に付け、自立の精神にあふれ、自分の良さや可能性を見だし、夢や目標の実現に向けて挑戦しながら、羅臼町はもとより国内外で活躍する人を育みます。

●ふるさとへの誇りと愛着を持ち、これからの社会に貢献し、共に支えあう人を育む

▶生まれ育ったふるさとへの誇りと愛着を持ち、よりよい社会の実現に貢献しようとする主体性と責任感、規範意識などの倫理観、人間尊重の精神や思いやりの心を持って、お互いを尊重し、共に支えながら、持続可能な地域づくりを支える人を学校・家庭・地域との連携の下、知床羅臼町の町民総掛かりで育みます。

◆社会教育目標

「21世紀をたくましく心豊かに生きるため共に学びあう社会教育を推進する」

1. 地域の課題をみつめ、自主・自立のまちづくりをめざそう
2. 心をむすぶ文化活動と、生涯学習活動で豊かなふるさとづくりをめざそう
3. 図書館を基盤として、ゆとりある読書環境と着実な読書習慣の定着をめざそう
4. 健康の増進、コミュニティづくりに役立つスポーツ活動をめざそう
5. 自らの地域について学び、愛着や誇りをもつ暮らしをめざそう

<羅臼町第9次社会教育中期計画> (令和6年度～令和9年度)

【重点】ふるさと学習(教育)の推進

【重点目標】シビックプライドの醸成

【重点事項】① 地域と学校の連携・協働の推進

② 生涯学習・社会教育の振興

③ 芸術・文化活動の推進

④ 安心・安全な教育施設の構築

羅臼町第9次社会教育中期計画全体図 <令和6(2024)年度~令和9(2027)年度>

重点	ふるさと学習(教育)の推進
重点目標	シビックプライドの醸成

教育目標

ふるさとと羅臼の躍進を創造し、ふるさとで逞しく行動する、心豊かな町民の育成

教育の基本方針

●自然豊かな北の大地で、世界を見つめ、自立の精神にあふれ、自らの夢に挑戦し、実現していく人を育む

➢知床羅臼町の豊かな自然、独自の歴史や文化への理解を深めながら、社会の変化に対応し、生涯にわたって生き抜く力を身に付け、自立の精神にあふれ、自分の良さや可能性を見だし、夢や目標の実現に向けて挑戦しながら、羅臼町はもとより国内外で活躍する人を育みます。

●ふるさとへの誇りと愛着を持ち、これからの社会に貢献し、共に支えあう人を育む

➢生まれ育ったふるさとへの誇りと愛着を持ち、よりよい社会の実現に貢献しようとする主体性と責任感、規範意識などの倫理観、人間尊重の精神や思いやりの心を持って、お互いを尊重し、共に支え合いながら、持続可能な地域づくりを支える人を学校・家庭・地域との連携の下、知床羅臼町の町民総掛かりで育みます。

社会教育目標

二十一世紀をたくましく心豊かに生きるため共に学びあう社会教育を推進する

地域の課題を見つめ、自主・自立のまちづくりをめざそう

心をむすぶ文化活動と、生涯学習活動で豊かなふるさとづくりをめざそう

図書館を基盤として、ゆとりある読書環境と着実な読書習慣の定着をめざそう

健康の増進、コミュニティづくり、役立つスポーツ活動をめざそう

自らの地域について学び、愛着や誇りをもつくらしをめざそう

領域	乳幼児(家庭)	少年教育
社会教育	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児に対する家庭内でのメディアコントロールに関するルール作りの重要性について、情報提供や学習機会の提供を図る。 子どもの自律・親育ち応援チーム「緒むすび」(以下、「緒むすび」という)を中心に、各関係機関と連携して推進体制の整備を図る。 講演会を始めとした学習機会の周知の徹底を図るとともに、内容についても対象を意識して体験型にする等の協議検討を行う。 保護者に対し、デジタルデバイスの有効的な活用方法や子どものアカウント管理の方法等についての学習機会の提供を図る。 「緒むすび」の活動に関する情報発信を積極的に実施することで、講演等の参加者増加に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験活動の充実を図るために、プログラムの検討や検証を実施する。 事業実施の体制整備を安定的に行うために、スタッフの人材発掘を継続するとともに育成のための研修機会の提供を行うことで、スタッフの知識やスキルの向上を図る。 変化し続ける情勢や自然環境に応じた運営方法の検討や体制・基盤整備の推進を図る。 大学生スタッフの獲得、延いては継続的な大学との連携へ繋げるため、大学に向けて事業の周知を図る。また、ふるさと少年探検隊への参加が大学にボランティア活動として評価を受けられるように整備を図る。
芸術・文化	<ul style="list-style-type: none"> 親・子(幼児)で楽しめるコンサートや舞台演劇などの鑑賞機会の提供に努める。 文化団体・サークル等と連携した親子で体験できる芸術・文化に関する講座・教室等を企画する。 	<ul style="list-style-type: none"> 芸術文化活動を幅広く体験する機会提供事業の充実を図る。 郷土の生活文化について学ぶ体験プログラムを充実しふるさと学習を推進する。 芸術文化活動の発表の場への参加に係る支援(派遣費助成など)について検討する。 「少年芸術劇場」「児童生徒美術書道展」開催の継続
図書館	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関と連携し、読書に親しむ環境づくりを進める。 読書に親しむ習慣を身に付けるため家庭における読書活動の推進を図る。 親子で読書活動の楽しさを学べる機会を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの読書環境の充実を推進するために、学校・地域・家庭との協力連携を図る。 小学校・中学年、高学年を対象とした読書活動の充実を図る。 子どもの読書活動を定着するため体験活動と連動して事業展開を図る
社会体育	<ul style="list-style-type: none"> 事業の開催等について、広報や町公式 SNS を活用した積極的な情報発信を行う。 NPO 法人羅臼スポーツクラブらと連携し、子育て世代のニーズを調査するとともに各家庭の交流機会の提供を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後維持するスポーツ少年団の在り方の検討を図る。 指導者の発掘及び養成とリーダーの養成を図る。 近隣市町とスポーツ少年団活動の連携・交流を図る。 総合型地域スポーツクラブと連携し、レジャースポーツの機会提供を図る。
郷土資料館	<ul style="list-style-type: none"> 子どもと保護者、地域の大人が体験活動を通じて、楽しみながらふるさとについて学べる機会の提供を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種事業と連携し、実物のものや自然に直接触れることを核とした、ふるさと教育を実施する。 魅力ある体験活動プログラムを充実させ、その活用を推進する。

推 進 事 項					
青年教育	成人教育	高齢者教育	基盤整備 (推進体制)	基盤整備 (施設)	団体育成・ 指導者養成
<ul style="list-style-type: none"> 町内青年組織同士の繋がりを作るための研修や交流の機会提供を行い、各組織及び町の課題解決に向けた連携強化を図る。 高校生が取り組む活動に対し、継続的且つ安定的な支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> PTA及びコミュニティスクールの活動について、既存事業や団体、地域との連携による活動の活性化を図る。 「緒むすび」と町内の子育て世代及び子育て経験者が、連携協力できる体制整備を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者が参加しやすい機会の提供や環境整備を図る。 高齢者が講師として活躍する機会の提供を図る。 社会福祉協議会及び老人クラブ等と連携し、新たな学習機会の創出が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修等を通じて、地域ぐるみで子供たちを育てる意識の醸成を図る。 社会教育関係職員の適正配置と研修機会の充実を図る。 コミュニティスクールの学校区ごとに部会を設置し、部会を中心とした地学協働活動の推進を図る。 社会教育委員の知識向上のための研修機会の充実を図る。 学校行事補完事業の重要性を再認識し、子どもたちの学習機会を確保する。 地域講師人材の整理（リスト化等） 	<ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化に対応した維持管理と計画的な修繕・整備を図る。 施設の利用促進や利用者の利便性向上のためのデジタル化等の推進を図る。 学校開放の利用可能教室の拡充と会議や講座開催も含めた利用促進を図る。 生涯学習施設整備に関する基本構想づくりに向けて各種団体との懇談・情報交換等を継続する。 庁内における文化施設（生涯学習施設）整備に関する方向性を検討する。（町としての施設整備に関する方向性・考え方をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 団体の活動への支援、指導及び助言を通して人材育成を図る。 団体の自主自立に向けた支援を継続的に行う。 団体が主催する事業を始めとした活動に対し、積極的且つ自主的に取り組むよう指導助言を行う。 各団体の状況を調査し、ニーズや課題を把握するとともに解決に向けた事業の推進を図る。
<ul style="list-style-type: none"> 青年層との情報交換の場を創出し施策を検討する。 他団体と連携し、芸術文化に触れ・体験する機会を提供する。 芸術文化鑑賞事業を通じてまちづくりに関わる人材育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存団体と連携した教室・講座等の開催を促進・支援し活動の活性化を図る。 ※生活文化の伝承なども視野に。 魅力ある新たな教室・講座等を企画し、活発な芸術文化活動を振興する。 ※羅臼の風土を生かす or 風土に合った or 風土に根付かせたい …芸術・文化活動 例えば創作料理教室の仕掛け～料理研究会等への発展も視野に。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者が親しみやすい芸術文化活動・創作活動のプログラムを企画・提供する。（こまぐさ学級のオープン参加プログラムの設定なども視野に） 高齢者の知恵や技術を活かす機会や、生活文化に関する伝承等、活躍の場を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> 専門職員の適正配置と、文化団体や芸術文化活動に取り組む町民を支援する推進体制を堅持する。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存団体と連携し、活動の活性化に向けた支援を行う。 新たなニーズに対応した活動への導き支援を行う。 	
<ul style="list-style-type: none"> 蔵書検索システムを活用し、図書館の利用促進を図る。 学校図書館と連携した青年層を中心とする読書活動の検討を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習に応えるための資料を収集し、整備を図る。 蔵書検索システムを活用し、利用促進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 大活字本の整備等、高齢者への読書支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 司書を適正配置し、図書館及び学校図書館運営の支援を行う推進体制をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料整備及び蔵書検索機能の継続と充実を図る。 蔵書の更新（廃棄等）に関する基準（規則）の整備を図る。 多様化する図書館での過ごし方に対応した館内環境整備を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせサークル等の継続的な支援を図る。
<ul style="list-style-type: none"> 競技スポーツの推進やスポーツに触れる機会の提供を図るため、関係団体と連携し著名な講師等を招聘したスポーツイベントや教室を開催・支援する。 各種事業を通じ、人材の発掘と養成を図る。 羅臼町のスポーツ・文化の在り方検討協議会で推進体制などの方向性を確立させる。 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツニーズを把握し、スポーツイベントを実施する。 羅臼町のスポーツ・文化の在り方検討協議会で推進体制などの方向性を確立させる。 保健福祉行政と連携し、健康づくり事業の機会提供を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉協議会等と連携し、男性が参加しやすい事業を提供する。 総合型地域スポーツクラブと連携し、スポーツ機会の提供を図る。 健康づくり事業の提供を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 町民ニーズを把握しスポーツ振興を図る。 らいずと連携し冬季スポーツの提供を図る。 保健福祉行政と隙が大きい者スポーツについて検討する。 町のスポーツ振興のため専門人材の活用を検討する。 羅臼町のスポーツ・文化の在り方検討協議会で、推進体制などの方向性を確立させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 整備計画作成のため、関係団体との協議を行う。 社会体育施設の利活用について、関係団体と協議する。 委託業者の日々の業務報告の中に、施設点検を加え、施設の状態を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ活動が継続できるように指導者の発掘・養成に取り組む。 スポーツ指導者懇談会を開催する。 羅臼町のスポーツ・文化の在り方検討協議会で推進体制などの方向性を確立する。 競技スポーツ推進のため、著名な講師等を招聘したスポーツ教室を開催する。
<ul style="list-style-type: none"> 羅臼高等学校の要望に応じた学習機会の提供を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 羅臼の歴史・文化・自然について継続して学習できる機会の提供を図る。 体験学習講座の周知の工夫を図る。 各種団体と連携した講座の開催を検討し、実施する。 資料を介して人と人をつなぐプログラムの検討を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者に向けた講座・プログラム等についての周知を図る。 高齢者への聞き取りを行うきっかけとして、高齢者を対象とした講座等を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的な文化財の保護活動を実施する。 郷土資料の台帳を作成する。 床いぶき樽の演奏映像の整理を図り、活用を検討する。 地域文化財保存活用計画の策定市町村への調査を実施する。 資料館運営体制の確保についても検討を図る。 日本遺産「鮭の聖地」の物語を構成する標津町、根室市、別海町と連携し、郷土資料館の周知及び利用促進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な改修及び修繕を図る。 施設的环境について改善方法を検討する。 	

第1節 「社会教育中期計画の重点」

羅臼町社会教育は、羅臼町教育大綱で示している羅臼町が目指す教育の基本方針である「ふるさとへの誇りと愛着を持ち、これからの社会に貢献し、共に支え合う人を育む」に従い、「ふるさと学習（教育）の推進」を重点としています。

ふるさと学習（教育）の定義とは、「自分が生まれ育ったふるさとの良さや課題などを発見し、ふるさとに愛着をもって、地域づくりに貢献できる「人」を育てることを基本とする。生活条件や環境、そして独自の歴史や風土をもつ地域社会の中で生まれ、地域の自然や社会、文化、産業などと深くかかわる過程で人間関係の輪を広げ、体験を豊かにしながら、地域の自然や文化、生活などを深く焼き付け、地域をより理解し、地域社会の一員としての自覚を高める。このことは、地域への関心を高め、地域を愛し大切に作る心や地域を発展させていこうとする意欲や態度を醸成するものである。」（「ふるさと教育を推進するために」H10/3 北海道参照）

羅臼町教育委員会は、SDGsの17のゴールを切り口として、ふるさと学習（教育）を推進することが、将来の羅臼町の担い手育成や、人と人がつながり、心豊かに生きる地域コミュニティの形成につながるものと考えており、社会教育の役割であると抑えています。

第2節 「社会教育中期計画の重点目標」

【1】ふるさと学習（教育）の推進に向けて

羅臼町第9次社会教育中期計画の重点目標を「シビックプライドの醸成」としています。

シビックプライドとは、「市(町)民の／都市の」という意味のシビックと、「誇り」を意味するプライドから成り立つ言葉であり、「まちに対する町民の誇り」といった概念をいいます。「郷土愛」「地元愛」は、自分が生まれ育った場所に対する愛着を指しますが、シビックプライドとは、その地域を良くしていこう、地域に貢献していこうという意識がシビックプライドであり、積極的な心意気もシビックプライドに含まれます。

ふるさと学習（教育）にシビックプライドという視点を取り入れることにより、地方創生の活性化、定住志向の高まりによる転出者の抑制、まちづくりへの参画意識の向上を期待しています。

【2】シビックプライド醸成のポイント

全町民に対し、シビックプライドの形成を促し、またそれを醸成していくために、次のポイントを取り入れていきます。

①定期的な情報発信

どんな取り組みをしても、知ってもらわなければ十分な効果を発揮できません。町民の方が誇りを感じるような魅力ある情報発信をしていきます。

②魅力的な事業の実施

定期的な情報発信に加え、魅力的な事業を行いながら、目的などの理解浸透を図ります。また、参加型にすることで、町民同士の新たな交流や能動的・主体的な活動が展開されるよう働きかけます。

③生涯学習・社会教育活動での浸透

社会教育や図書館が行う各種事業に、シビックプライドの視点を加え、シビックプライドの形成につなげていきます。

また、地域一体となって進めていけるよう取り組みを進めます。

シビックプライドとは

シビックプライド（Civic Pride）は、地域や自治体に対する住民の誇りや愛着、そして地域社会に貢献する意識を指す言葉です。地域住民のシビックプライドを育むことは、地域社会の活性化や魅力の向上に寄与し、住民の協力を促進する重要な要素となっています。

シビックプライドは、「自分が住んでいる地域に対する誇り」と定義されています。住民が自分たちの地域や自治体に誇りをもち、それを支え改善しようとする姿勢を表しており、単に「郷土愛」や「郷土意識」を指しているものではありません。

重要なのは、その地域社会に住む一住民として、地域の発展に貢献していこうという意識です。その当事者意識こそがシビックプライドであり、その意味では生まれ故郷であるかは関係なく、たとえその地域が生誕地ではなくとも、住んでいる都市に対して住民が誇りをもっているのであればシビックプライドと言えます。

第3節「ふるさと学習のねらい」

*地域の課題を見つめ、自主・自立のまちづくりをめざそう

長い歴史の中でわが町は、豊かな自然の恩恵を享受し、漁業を基幹産業として経済活動やわが町ならではの生活文化を営んできました。社会教育では、わが町だからこそ可能な学習素材やフィールドを活用した「ふるさと学習」を進めてきました。今後の4カ年では、この「ふるさと学習」の一層の充実と推進を図るために、地域・学校・家庭が一体となって地域課題と価値観を共有し、ともに生きるふるさとづくりを目指します。

また、人口減少による過疎化が懸念される現状の中、次世代のまちづくりや地域の活性化には青年層の社会参加が不可欠であるため、各組織や産業団体、個人や企業が総合的に結びつき、協働（総働）の意識を高めながら、青年とともに町の未来図を描く活動展開を図ります。

*心をむすぶ文化活動と、生涯学習活動で豊かなふるさとづくりをめざそう

現代社会においては、生涯学習を通して豊かな心を育み教養を高めることはもとより、情報社会を生きぬく術を身に付けることが必要とされています。町民が孤立することのないあたたかい町をつくるために、芸術・文化活動を通して町民がつながり、心を結ぶ地域づくりが求められています。

文化活動では、団体・サークル等と連携し、芸術文化鑑賞等の機会提供や活動成果の発表機会の一層の充実を図ります。

*図書館を基盤とした、ゆとりある読書環境と着実な読書習慣の定着をめざそう

羅臼町図書館として初めて単独館での運営が始まり、施設を拠点とした図書活動の展開が求められます。単独館に収まらず、分散して蔵書している図書の利用の効率化を図るため、蔵書検索システムの更なる活用を推進します。また、次代を担う子ども達の生きる力を育むために各種事業を充実させ、子どもの読書活動の推進を図らなければなりません。そのためには、ボランティア会員の増員や新たなサークルの育成支援を図ります。

*健康の増進、コミュニティづくりに役立つスポーツ活動をめざそう

社会環境が大きく変化している現在、身体を動かす機会の減少、生活習慣病や精神的なストレスの増大、人間関係の希薄化など、様々な問題が顕在化しています。

スポーツ基本法では、スポーツが青少年の健全育成、心身の健康増進、地域社会の再生、社会の活力の創造等、多面にわたる役割を担うことが明記されています。性別や年齢に関わらず、地域の実情に即した生涯にわたるスポーツの実践と競技スポーツの向上に加え、誰もが気軽に参加できるレジャースポーツの取り組みを通して、コミュニティづくりにも意識しながら、スポーツ環境の充実を図らなければなりません。今後も関係機関、団体及び総合型地域スポーツクラブ（NPO 法人羅臼スポーツクラブら）と連携し、健康維持、体力づくりの機会創出に努め、生涯スポーツの普及と推進を図ります。

*自らの地域について学び、愛着や誇りをもつ暮らしをめざそう

わが町は、海と山の豊かな自然に恵まれた漁業の町です。この豊かな自然は海と山が一体となった生態系と生物の多様性が評価されて世界自然遺産となっています。この豊かな自然の恵みと、時に厳しい一面を見せる自然を畏れ敬いながら、先史時代より人々の生活が営まれ、歴史と文化が残されてきました。

この歴史や文化を伝える資料や豊かな自然に直接触れる体験活動によって、ふるさと学習を推進し、地域に愛着や誇りをもつ暮らしをめざします。

第3章 4カ年の重点事項

羅臼町教育大綱では、3つの柱のうちの1つに「地域と歩む持続可能な教育の実現」を掲げております。

主な取り組みは、次のとおりです。

①地域と学校の連携・協働の推進

ア) 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）については、学校の教育目標を理解し、地域が教育目標実現のため協力していく組織体制として発足しました。

学校と地域の在り方も変化し、学校は人と人を繋ぐ場所として、まちづくりの拠点として、その役割も期待されています。

「地域の子どもは地域で育てる」という考え方をより一層地域に浸透させていく必要があるため、各校に地域支援活動を行う組織「地学協働活動部会」を設置し、学校と地域の連携・協働を図ります。

イ) 子育て支援・家庭教育支援については、家庭環境や子育ての不安感を把握し、子育てのコツやヒントを提供しながら、不安解消のための施策を展開しています。子どもの教育は、家庭教育が重要であり、保護者に対する様々な学びの機会が必要であると考えています。

子ども達が健全に育つよう学校と地域、家庭の連携を図りながら、家庭教育の充実を図ります。

②生涯学習・社会教育の振興

ア) 人材育成・リーダー養成については、若者の町外流出をはじめとする人口減少時代の喫緊の課題と捉えています。

ふるさと学習事業を展開しながら、新たな人材の発掘・育成を行い、多くの人材にリーダー養成の研修機会の提供を図っていきます。

イ) 団体支援については、日頃の活動が継続できるよう随時、相談事業を行うことで、団体が自主・自立するための行政支援をしていきます。

併せて、地域課題に向き合い、協働の意識を高めていきます。

ウ) 図書館活動については、生涯学習の土台となる読書活動へのきめ細やかな支援や、図書館資料の整備と保存を継続して実施しています。新図書館を基盤とした図書館活動を充実させ、町民のさらなる読書活動の推進を図ります。

- エ) スポーツ活動の推進については、人口減少・高齢化によりスポーツ人口も減少し続けています。また新型コロナウイルスの影響により、スポーツニーズも変化し、また多様化しています。

スポーツ活動は、個人の自主的・自発的な活動ではありますが、生涯にわたりスポーツに親しむことができる環境が必要であると捉えており、その仕組みや体制について、総合型地域スポーツクラブと連携し、地域の実情に合った整備をしていきます。

また、スポーツ活動に限らず、文化活動も含めて当町のこれからのスポーツ・芸術文化活動推進の在り方を検討し、方向性を定めていきます。

③芸術文化活動の推進

- ア) 日本遺産関係については、「鮭」というキーワードで歴史や生活・文化などを観光産業につなげていくため、関係機関と連携してサブストーリーを作成することが求められています。歴史や生活・文化の魅力を地域の新しい魅力として活かしていきます。

- イ) 文化財保護については、郷土資料館を中心にその保護と活用が行われています。郷土資料館の魅力づくりの一環として、歴史や文化の学習活動を継続して推進していきます。

- ウ) 芸術文化活動については、広い世代に様々な芸術文化活動の体験ができるように機会提供事業の充実を図ります。また、既存団体と連携・協力し、魅力ある講座の開催や活動の活性化に向けた支援を行います。

④安全・安心な教育環境の構築

- ア) 防災教育の充実については、学校施設で毎年実施されておりますが、社会教育施設でも関係団体と連携し、利用者の安全対策や初動マニュアル等を確立して防災訓練を実施するなど、利用者の安全・安心を図ります。

- イ) 施設の長寿命化については、公共施設管理計画に基づき、計画的に整備を進めていくとともに、日々の施設点検についても強化を図っていきます。

- ウ) 公民館に代わる生涯学習施設整備の方向性（求められる施設）に関する基本構想づくりに着手します。

【社会教育事業の様子】



【こまぐさ学級】



【ふるさと体験教室】



【高校生の水産教室】



【創作料理プロジェクト】



【総合文化祭】



【寺子屋 kids】



【図書館バス】



【本との出会い講演会】

第4章 現状と課題及び 4カ年のアクションプログラム

SDGs「持続可能な開発目標」について

2015年9月に国連で採択されたSDGs（Sustainable Development Goals）は、17のゴール（目標）と169のターゲットからなる共通の指針として掲げ、その実現に向けた取組が広がっています。SDGsは先進国を含む全ての国々の取組目標を定め、全世界共通の目標として、貧困の撲滅など、誰一人取り残さない、包摂的な世界の実現を目指すことを理念に掲げています。

羅臼町第9次社会教育中期計画では、各事業に特に関連するSDGs項目を一覧表で掲載することで、社会教育事業とSDGsの関係性を可視化しています。

	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。		飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。
	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。		すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。
	ジェンダー*平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。 ※「社会的・文化的に形成された性別」		すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。		包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する。
	強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。		各国内及び各国間の不平等を是正する。
	包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する。		持続可能な生産消費形態を確保する。
	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。		持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する。
	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する。		持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。
	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。		

第1節 乳幼児（家庭）教育

【現状】

<社会教育活動>

- ・子どもの自律・親育ち応援チーム「緒むすび」^{注1}（以下、「緒むすび」という。）では、令和2年度よりメディアコントロール（子どもとメディア端末の関わり方）やメディア端末の影響等を中心に講演会や説明会等を行ってきたが、全国的にスマホを所持する子どもの低年齢化やGIGAスクールを始めとした子どもがデジタルデバイスを利用する頻度が増加していく流れにあり、家庭内でのルール設定の重要度が高まってきている。
- ・全ての保護者にメディアコントロールについての説明を実施するために、就学時検査や入学・入園説明会で時間を設けて説明会を実施しているが、満足な参加者確保には至っていない。

※注1 「子どもの自律・親育ち応援チーム「緒むすび」…子ども達が生涯を通じて心身ともに明るく健康な生活を送るには、子ども自身が様々な課題を主体的に解決するための知識を身につけ自律することが必要であり、そのためには、家庭の理解とサポートが不可欠です。子育てに関わる行政間で連携を図りながら学校・家庭・地域に協力を求めて緒（糸）を結び、専門知識と技能を導入しながら子どもの自律と家庭の教育力向上を目的に、生活習慣の改善及び読書習慣の定着に向けた事業の企画・実行・検証をするための組織。

<芸術・文化活動>

- ・幼児が芸術・文化を体験する機会としては、絵本などを通じて描画や文章表現の世界に触れたり、幼稚園ではお絵描きや工作などの創作活動、発表会に向けた歌や踊りや器楽演奏などの体験のほか、生活文化としての体験では、漬物づくりやホッケのかまぼこづくりなどの食育活動、豆まきや餅つきなどの季節行事など様々な活動が行われている。
- ・幼児期の子どもが本物の芸術に触れることは、大人が思っている以上に素晴らしい経験になると言われている。1～6歳の子どもの五感は一ときわ敏感であり、この時期に五感を通して触れたあらゆる情報は脳にインプットされ、鮮やかな経験、知識として蓄積される。しかしながら、美術館や劇場など、芸術鑑賞施設のない当町では、幼児を対象とした生の芸術（舞台劇や音楽鑑賞など）に触れる機会が極めて少ないのが現状である。
- ・そのような中であって、美術本や美術絵本は子どもの好奇心を掻き立て、手軽な絵画鑑賞の機会となり得る。また、子どもは音楽を聴くと自然とリズムをとって体を揺らしたり、踊ったりするが、この時、子どもは五感を使うとともに感性をも磨いており、子どもの成長にとって、欠かせない重要な体験であると言える。
- ・子どもが絵本や音楽などに興味を持つには、親や家族が読み聞かせや音楽を聴く機会を提供することは勿論のこと、子どもを取り巻く親や家族自身が読書や音楽鑑賞など、芸術に親しんでいる姿を見せることもとても重要であることから、読み聞かせサークルと連携した図書館活動の充実や平成30年に設置された「緒むすび」の取り組みによる親への情報提供や体験の機会提供などが期待される。

<図書館活動>

- ・読書習慣の形成は、乳幼児からの読み聞かせから始まるため、家庭での読み聞かせにつなげるための各種事業を実施している。
- ・乳幼児期は、保護者が読み聞かせを行うため、保護者への読書活動や読み聞かせ活動の啓発が重要である。事業参加者は、読み聞かせの重要性を感じてくれるが、事業不参加の保護者には、啓発活動ができ

ていないことが課題と考えられる。また、それぞれの事業の参加者満足度は高い傾向にあるが、利用者登録や貸出数につながらない状況にある。それぞれの事業がつながりを持ち、全体で読書習慣を形成していくという事業目的が保護者に伝わっていないのではないかと考えられる。

<社会体育活動>

- ・発達段階に応じた情報提供やかかわりあそびプログラムをはじめとした学習機会の提供については、情報発信が十分に行われていない。
- ・子育て世代の交流を行っているが、保護者の要望の把握等はされていない。

<郷土資料館活動>

- ・郷土資料館における家庭教育支援への役割として、子どもと保護者、もしくは地域の大人がともに体験活動を通じて郷土について学ぶ機会の提供があげられる。これにより、子どもと保護者との共同体験からコミュニケーション向上が図られるとともに、郷土について知るきっかけとなり、子どもの郷土に対する興味関心の継続が図られると考えられる。
- ・郷土資料館ふるさと体験学習講座では、子どもと保護者との参加をターゲットとした体験型の講座を実施し、機会の提供を図っている。

【課題】

<社会教育活動>

- (1)時代の流れに沿った家庭内でのメディアコントロールに関するルール作りの普及・啓発が必要である。
- (2)乳幼児の発達段階に応じた家庭教育について、情報及び学習機会の提供等による幅広い支援を行う必要がある。
- (3)多くの保護者に講演や情報提供の場に参加してもらえるような仕掛けや工夫が必要である。
- (4)デジタルデバイスの利用制限だけでなく、学習の利便性向上や知育的な利用方法を学ぶ機会の提供が必要である。

<芸術・文化活動>

- (1)保護者が自ら芸術文化活動を楽しむ姿を子どもに見せることへの理解を図る必要がある。
- (2)優れた生の芸術文化鑑賞機会を提供する必要がある。
- (3)子育てに関する情報提供（情報量・内容・多様な提供手段）を充実させる必要がある。

<図書館活動>

- (1)読書習慣の土台づくりにつながる事業を継続して実施していく必要がある。
- (2)読書や読み聞かせに関心の低い保護者への啓発活動を実施していく必要がある。
- (3)事業の関連性の周知をしていく必要がある。

第1節 乳幼児（家庭）教育

<社会体育活動>

- (1)開催する事業等について、積極的に情報発信する必要がある。
- (2)子育て世代のニーズを調査し、把握する必要がある。

<郷土資料館活動>

- (1)引き続き、子どもと保護者、地域の大人がふるさとについて共に学べる機会の提供が必要である。

【推進項目】

<社会教育活動>

- *乳幼児に対する家庭内でのメディアコントロールに関するルール作りの重要性について、情報提供や学習機会の提供を図る。
- *「緒むすび」を中心に、各関係機関と連携して推進体制の整備を図る。
- *講演会を始めとした学習機会の周知の徹底を図るとともに、内容についても対象を意識して体験型にする等の協議検討を行う。
- *保護者に対し、デジタルデバイスの有効的な活用方法や子どものアカウント管理の方法等についての学習機会の提供を図る。
- *「緒むすび」の活動に関する情報発信を積極的に実施することで、講演等の参加者増加に繋げる。

<芸術・文化活動>

- *親・子(幼児)で楽しめるコンサートや舞台演劇などの鑑賞機会の提供に努める。
- *文化団体・サークル等と連携した親子で体験できる芸術文化に関する講座・教室等を企画する。

<図書館活動>

- *読書に親しむ習慣を身に付けるため、家庭における読書活動の推進を図る。
- *関係機関と連携し、読書に親しむ環境づくりを推進する。
- *親子で読書活動の楽しさを学べる機会を提供する。

<社会体育活動>

- *事業の開催等について、広報や町公式 SNS を活用した積極的な情報発信を行う。
- *NPO 法人羅臼スポーツクラブらいずと連携し、子育て世代のニーズを調査するとともに各家庭の交流機会の提供を図る。

<郷土資料館活動>

- *子どもと保護者、地域の大人が体験活動を通じて、楽しみながらふるさとについて学べる機会の提供を図る。

【事業ごとのSDGs対応表】

領域	事業名	特に関連するSDGs項目			
活動 社会教育	家庭教育支援事業				
芸術・文化活動	親子で体験事業（芸術・文化）				
	幼稚園芸術鑑賞事業の補完				
図書館活動	ブックスタート事業				
	本との出会い講座・講演会				
	図書館バス巡回事業				
	図書館バス利用ガイダンス				
	ちいさい子のおはなし会				
	らうす古本市				
	家読推進事業				
社会体育活動	スポーツ相談事業				
	総合型地域スポーツクラブ協働事業				
活動 郷土資料館	郷土資料館体験学習講座				

第1節 乳幼児（家庭）教育

分野	推進項目	事業名	対象	関係機関
社会教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児に対する家庭内でのメディアコントロールに関するルール作りの重要性について、情報提供や学習機会の提供を図る。 ・「緒むすび」を中心に、各関係機関と連携して推進体制の整備を図る。 ・講演会を始めとした学習機会の周知の徹底を図るとともに、内容についても対象を意識して体験型にする等の協議検討を行う。 ・保護者に対し、デジタルデバイスの有効的な活用方法や子どものアカウント管理の方法等についての学習機会の提供を図る。 ・「緒むすび」の活動に関する情報発信を積極的に実施することで、講演等の参加者増加に繋げる。 	家庭教育支援事業	保護者	幼稚園 小・中学校 高等学校 PTA 子育て支援センター 保健福祉課 子どもの自律・親育ち応援チーム 「緒むすび」
芸術・文化活動	<ul style="list-style-type: none"> ・親・子（幼児）で楽しめるコンサートや舞台演劇などの鑑賞機会の提供に努める。 ・文化団体・サークル等と連携した親子で体験できる芸術・文化に関する講座・教室等を企画する。 	親子で体験事業（芸術・文化）	乳幼児保護者	文化協会 サークル・グループ 子どもの自律・親育ち応援チーム 「緒むすび」 図書館
		幼稚園芸術鑑賞事業の補完	幼稚園児	学務課 幼稚園

事業推進の年度別指標			
令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
<p>体験型講演会等の参加しやすい講演会の企画・開催</p> <p>「緒むすび」の活動の積極的な情報発信</p> <p>デジタルデバイスの有効活用についての学習機会の検討</p>	検証・継続	検証・継続	検証・継続
<p>文化団体との連携や「緒むすび」の取り組みを通じて芸術・文化に触れる・体験する事業を企画・実施する。</p>	検証・継続	検証・継続	検証・継続
<p>総合文化祭及び関連事業等で幼児の発表機会や体験の機会提供に努める。(作品展示、町民小劇場への出場など)</p>	検証・継続	検証・継続	検証・継続
<p>必要に応じ令和6年度から幼稚園で実施する芸術・文化鑑賞事業への支援を行う。</p>	検証・継続	検証・継続	検証・継続

第1節 乳幼児（家庭）教育

分野	推進項目	事業名	対象	関係機関
図書館活動	<ul style="list-style-type: none"> ・読書に親しむ習慣を身に付けるため家庭における読書活動の推進を図る。 ・関係機関と連携し、読書に親しむ環境づくりを進める。 ・親子で読書活動の楽しさを学べる機会を提供する。 	ブックスタート事業	乳幼児 保護者	保健福祉課 読み聞かせサークル
		本との出会い講座・講演会	幼児 保護者	幼稚園 小学校 子育て支援センター
		図書館バス巡回事業	乳幼児～高齢者	幼稚園 小学校 中学校 子育て支援センター
		図書館バス利用ガイダンス	幼児 小学1年生	幼稚園 小学校
		ちいさい子のおはなし会	乳幼児 保護者	読み聞かせサークル
		らうす古本市	幼児～高齢者	文化祭実行委員会
		家読推進事業	乳幼児～成人	幼稚園 小学校 中学校 高校 子育て支援センター
社会体育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の開催等について、広報や町公式SNSを活用した積極的な情報発信を行う。 ・NPO 法人羅臼スポーツクラブらいずと連携し、子育て世代のニーズを調査するとともに各家庭の交流機会の提供を図る。 	かかわりあそび プログラム	幼児、保護者	羅臼スポーツクラブらいず 子育て支援センター
		総合型地域 スポーツクラブ 協働事業 (子育て世代交流事業等)	幼児、保護者	羅臼スポーツクラブらいず
郷土資料館活動	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと保護者、地域の大人が体験活動を通じて、楽しみながらふるさとについて学べる機会の提供を図る。 	郷土資料館 体験学習講座	幼児～高齢者	社会教育課 図書館

	事業推進の年度別指標			
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
絵本を仲立ちに親子の絆を深め、家庭での読み聞かせの定着	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
読書への興味付けを図る機会提供	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
貸出サービスの充実	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
公共施設の適切な利用の習慣づけ	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
ブックスタート後、読み聞かせを継続するための機会提供	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
除籍となった本等を町民還元し、読書活動への関心を高める	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
本と出会う機会を提供し、各家庭での読み聞かせ及び読書習慣の定着	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
教室開催、指導者派遣等の各種スポーツ相談	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
「らいず」が主催する各種事業の企画・運営に対する協力・支援及び連携	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
郷土資料館ふるさと体験学習講座（全5回中の1回は親子プログラム）	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続

第2節 少年教育

【現状】

<社会教育活動>

- ・子ども会育成協議会や関係機関と連携は図られているが、コロナ禍で満足な事業実施が出来ていないため、体験活動を通じた学習の提供や担い手育成が停滞している。
- ・長期休業期間中の生活リズムや運動習慣の改善及び定着を目的とした寺子屋 kids もコロナ禍で十分な開催ができず、目標に沿った事業展開が出来ていない。
- ・事業の中止が続いたことで、事業の認知度やスタッフ全体の経験値等が低下・停滞しているため、参加者の確保や安全性を含めた事業遂行の難易度が上がっている。

<芸術・文化活動>

- ・学校教育行事や社会教育事業として提供する少年芸術劇場、児童生徒美術書道展、町総合文化祭、ふるさと体験教室などのほか、町内で民間の教室として開設されているピアノ教室や書道教室、実行委員会（事務局：羅臼神社）が提供する伝統文化（茶道・華道）を学ぶ教室への参加、さらに幅広い年齢層で構成される知床ブルーイーグルスで活動する児童・生徒も見られる。また、ダンスやバレエなどについては、町外に活動の場を求めて通っていた児童・生徒も見られた。
- ・学校教育行事として実施してきている「少年芸術劇場」「児童生徒美術書道展」については、教職員の間で実施の是非について様々な意見が出ている。
- ・芸術文化活動を指導する人材に乏しい当町においては、行政としても芸術文化活動の下支えをしていくことが必要と思われる。児童・生徒が芸術文化に触れる・体験する機会提供や発表機会に係る支援など、予算面も含めた少年対象の芸術文化活動に対する支援を求める声も上がっている。

<図書館活動>

- ・学校司書が継続して配置されたことにより、学校内での役割が定着し、学校図書館の整備や図書館と連携した図書の貸出を行うことができおり、学校内での読書活動が活性化している。
- ・読み聞かせサークル・学校ボランティアとの連携・協力が定着し、小学校全学年での読み聞かせを継続して実施している。
- ・小学校低学年に向けた読書活動を推進する事業は実施できているが、中学年、高学年にかけては実施できておらず、比例するように中学年、高学年の図書館バスの利用は減少傾向となり、学年が進むにつれ読書離れが進む傾向にある。
- ・「緒むすび」によるアンケート調査では、概ね各年代の60%以上の子ども達が「本が好き」または「どちらかといえば好き」と回答しているが、実際の読書量の調査では、一日の読書量が「10分未満」または「全くしない」と答える子ども達が小学生・中学生ともに50%を超える結果となった。このことから、子ども達に「読書が楽しい」と認識させることはできているが、読書習慣にまではつなげられていないと考えられる。

<社会体育活動>

- ・コロナ禍で指導者の発掘、リーダー養成事業が行えていない。
- ・児童数の減少から、団体スポーツが維持できていない。
- ・コロナ禍で子どもの体力向上のための事業が出来ていない。
- ・部活動の地域移行については、関係者による協議会を設立し、検討が開始されている。

<郷土資料館活動>

- ・学校や社会教育事業と連携を図りながら体験活動を通じたふるさと教育を実施しており、その中で実物や自然に触れる機会の提供が図れている。少年期のこのような体験は、学びの喜びを味わうと同時に、生涯にわたり社会教育機関を有効に活用しながら学び続けることへの端緒となることから、これを推進している。
- ・また、学校教育の中での郷土資料館の利用は、新型コロナウイルス感染症対策の緩和に伴いそれ以前よりも利用が増えてきているが、これの継続については不透明な部分がある。

【課題】

<社会教育活動>

- (1) 全ての子ども達が生きる力を身につけられるよう、教員等を含めた地域人材の力を活かしたカリキュラムの検討が必要である。
- (2) 10年後、20年後を見据えた取り組み体制の安定化を図るための基盤整備に取り組んでいくことが重要である。
- (3) 事業が実施出来ず経験が蓄積されていない状況であるため、着実な事業実施のための体制整備を継続して行っていく事が重要である。
- (4) 子どもの体験学習の推進について、安全確保を徹底したうえで、効果的且つ安定的に実施するためにスタッフの発掘及び育成が重要である。

<芸術・文化活動>

- (1) 児童・生徒が芸術文化に触れる・体験する機会提供や発表機会に係る支援など、予算面も含めた少年対象の芸術文化活動の支援方策等について検討する必要がある。
- (2) 芸術文化活動を体験し、発表に繋げる場の提供を進めるため、既存の文化団体やサークルと連携して魅力ある企画を検討する必要がある。

<図書館活動>

- (1) 学校司書の継続した配置を求めていく必要がある。
- (2) 読み聞かせサークルや学校ボランティアと連携して、小学校全学年での読み聞かせの実施を継続していく必要がある。
- (3) 学校司書、学校図書館と連携し、小学校中学年、高学年の読書につながる事業の検討を行う必要がある。
- (4) 子ども達の読書習慣の定着を推進する事業を検討する必要がある。

<社会体育活動>

- (1) 競技スポーツ推進のため、指導者発掘、養成の研修の機会提供を行う必要がある。
- (2) 中学校部活動の地域移行をはじめ、羅臼町の今後のスポーツの在り方の検討を継続する必要がある。
- (3) 子ども達が様々なスポーツに触れあえる機会の創出が必要である。

<郷土資料館活動>

- (1) 実物や自然に直接触れることを核とした、ふるさと教育を継続して実施する必要がある。
- (2) 学校教育における郷土資料館利用の継続について、学校に対し周知を図る必要がある。

【推進項目】

<社会教育活動>

- * 体験活動の充実を図るために、プログラムの検討や検証を実施する。
- * 事業実施の体制整備を安定的に行うために、スタッフの人材発掘を継続するとともに育成のための研修機会の提供をすることで、スタッフの知識やスキルの向上を図る。
- * 変化し続ける情勢や自然環境に応じた運営方法の検討や体制・基盤整備の推進を図る。
- * 大学生スタッフの獲得、延いては継続的な大学との連携へ繋げるため、大学に向けて事業の周知を図る。また、ふるさと少年探険隊への参加が高校や大学にボランティア活動として評価を受けられるように整備を図る。

<芸術・文化活動>

- * 「少年芸術劇場」「児童生徒美術書道展」開催の継続
- * 芸術文化活動の発表の場や大会等への参加に係る支援（派遣費助成など）について検討する。
- * 芸術文化活動を幅広く体験する機会提供事業の充実を図る。
- * 郷土について学ぶ体験プログラムを充実し、ふるさと学習を推進する。

<図書館活動>

- * 子どもの読書環境の充実を推進するために、学校・地域・家庭との協力連携を図る。
- * 小学校中学年、高学年を対象とした読書活動の充実を図る。
- * 子どもの読書習慣を定着させるため、体験活動と連動させた事業展開を図る。

<社会体育活動>

- * 羅臼町のスポーツ・文化の在り方検討協議会で推進体制などの方向性を確立させる。
- * 子ども達がスポーツに触れる機会を提供するため、関係団体と連携を図る。
- * 競技スポーツの推進やスポーツに触れる機会の提供を図るため、関係団体と連携し著名な講師等を招聘したスポーツイベントや教室を開催・支援する。

<郷土資料館活動>

- * 各種事業と連携し、実物や自然に直接触れることを核としたふるさと教育を実施する。
- * 体験活動プログラムを充実させ、学校等への周知を図り、この活用を推進する。

【事業ごとのSDGs対応表】

領域	事業名	特に関連するSDGs項目				
活動 社会教育	ふるさと少年探険隊					
	家庭教育支援事業 らうす寺子屋 kids					
芸術・文化活動	芸術文化鑑賞事業					
	ふるさと体験教室					
	ロビー・ホール展示事業					
	総合文化祭					
	芸術文化活動に係る大会等参加費助成事業					
	「少年芸術劇場」「児童生徒美術書道展」の補完					
図書館活動	本との出会い講座・講演会					
	読み聞かせ連携支援					
	図書館バス巡回事業					
	図書館バス利用ガイダンス					
	らうす古本市					
	図書館のひみつ学習					
	家読推進事業					
社会体育活動	クナシリ眺望駅伝競走大会					
	スポーツ相談事業					
	総合型地域スポーツクラブ協働事業					
	リーダー養成事業					
	羅臼町のスポーツ・文化の在り方検討協議会					
	子どもの体力向上事業					
郷土資料館活動	ふるさと少年探険隊との連携プログラム					
	ふるさと体験教室との連携プログラム					
	体験活動プログラム活用推進事業					

第2節 少年教育

分野	推進項目	事業名	対象	関係機関
社会教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動の充実を図るために、プログラムの検討や検証を実施する。 ・事業実施の体制整備を安定的に行うために、スタッフの人材発掘を継続するとともに育成のための研修機会の提供をすることで、スタッフの知識やスキルの向上を図る。 ・変化し続ける情勢や自然環境に応じた運営方法の検討や体制・基盤整備の推進を図る。 ・大学生スタッフの獲得、延いては継続的な大学との連携へ繋げるため、大学に向けて事業の周知を図る。また、ふるさと少年探険隊への参加が高校や大学にボランティア活動として評価を受けられるように整備を図る。 	ふるさと少年探険隊	小学4年生 ～中学3年生	子ども会育成協議会 高校
		家庭教育支援事業 らうす寺子屋 kids	保護者 小学1～3年生	PTA 保健福祉課 図書館 子どもの自律・親育ち応援チーム 「緒むすび」
芸術・文化活動	<ul style="list-style-type: none"> ・「少年芸術劇場」「児童生徒美術書道展」開催の継続 ・芸術文化活動の発表の場や大会等への参加に係る支援（派遣費助成など）について検討する。 ・芸術文化活動を幅広く体験する機会提供事業の充実を図る。 ・郷土について学ぶ体験プログラムを充実し、ふるさと学習を推進する。 	芸術文化鑑賞事業	小学生～高齢者	実行委員会 (うるとらうす!、文化協会など)
		ふるさと体験教室	知床 Kids (小学4年生～6年生)	(公財)知床財団 環境省 郷土資料館
		ロビー・ホール展示事業	幼児～高齢者	文化協会 サークル 学校等各団体
		総合文化祭	幼児～高齢者	文化祭実行委員会
		芸術文化活動に係る大会等参加費助成事業	小・中学生 高校生	各種団体等
		「少年芸術劇場」「児童生徒美術書道展」の補完	小・中学生	学務課 小学校 中学校

事業推進の年度別指標				
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
高校生スタッフの募集（参加経験者への働きかけ） 自然環境教育を含めた事業充実のための内容検討 スタッフの知識・スキル向上のための研修内容の検討 継続的に参加可能なスタッフの発掘・養成		検証・継続	検証・継続	検証・継続
生活習慣を整える学びの提供		検証・継続	検証・継続	検証・継続
関係団体と連携して生の芸術・文化の鑑賞機会を提供する。		検証・継続	検証・継続	検証・継続
郷土の歴史や生活文化に触れる・体験する機会を提供する。		検証・継続	検証・継続	検証・継続
町民体育館や新図書館をはじめ、各既存施設を利用した自主企画展や学習活動の発表の場の提供、芸術・文化に触れる機会の提供を図る。		検証・継続	検証・継続	検証・継続
個人及び団体の日頃の活動成果の発表機会を提供する。 文化団体と連携し、芸術・文化を体験する機会を提供する。		検証・継続	検証・継続	検証・継続
芸術・文化活動の分野において町外で開催される全国・全道規模の発表会・大会等への出場・参加に係る費用の助成について充実に向けた検討・整理を行う。		実施	検証・継続	検証・継続
学校教育行事の補完として「少年芸術劇場」「児童生徒美術書道展」の実施		検証・継続	検証・継続	検証・継続

第2節 少年教育

分野	推進項目	事業名	対象	関係機関
図書館活動	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの読書環境の充実を推進するために、学校・地域・家庭との協力連携を図る。 小学校中学年、高学年を対象とした読書活動の充実を図る。 子どもの読書活動を定着するため体験活動と連動して事業展開を図る 	本との出会い 講座・講演会	幼児 小学生 保護者	幼稚園 小学校
		読み聞かせ連携支援	小学生	小学校 読み聞かせサークル
		図書館バス巡回事業	乳幼児～高齢者	幼稚園 小学校 中学校 子育て支援センター
		図書館バス 利用ガイダンス	幼児 小学1年生	幼稚園 小学校
		らうす古本市	幼児～高齢者	文化祭実行委員会
		図書館のひみつ学習	小学校3年生	小学校
		家読推進事業	乳幼児～成人	幼稚園 小学校 中学校 高校 子育て支援センター
社会体育活動	<ul style="list-style-type: none"> 羅臼町のスポーツ・文化の在り方検討協議会で推進体制などの方向性を確立させる。 子ども達がスポーツに触れる機会を提供するため、関係団体と連携を図る。 競技スポーツの推進やスポーツに触れる機会の提供を図るため、関係団体と連携し著名な講師等を招聘したスポーツイベントや教室を開催・支援する。 	クナシリ眺望 駅伝競走大会	小学4年生以上	クナシリ眺望駅伝競走大会 実行委員会
		スポーツ相談事業	小・中学生 保護者 指導者 (5名以上のグループ)	社会体育団体 羅臼スポーツクラブらいざ スポーツ少年団本部
		総合型地域スポーツ クラブ協働事業 (スポーツ教室等の開催)	小・中学生 保護者 指導者	羅臼スポーツクラブらいざ
		リーダー養成事業	小・中学生	スポーツ協会 スポーツ少年団本部 羅臼スポーツクラブらいざ
		羅臼町のスポーツ・文化の 在り方検討協議会	小学生～成人	羅臼町のスポーツ・文化の 在り方検討協議会
		子どもの体力向上事業	園児、小・中学生 保護者、指導者	羅臼スポーツクラブらいざ スポーツ推進委員
		郷土資料館活動	<ul style="list-style-type: none"> 各種事業と連携し、実物や自然に直接触れることを核としたふるさと教育を実施する。 体験活動プログラムを充実させ、学校等への周知を図り、この活用を推進する。 	ふるさと少年探検隊 との連携プログラム
ふるさと体験教室 との連携プログラム	知床 Kids (小学4年～6年生) 中学生			(公財)知床財団 環境省
体験活動プログラム 活用推進事業	小・中学生			小学校 中学校

	事業推進の年度別指標			
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
読書への興味付けを図る機会提供	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
読書への関心を高めるための機会提供として学校やサークルと連携し、活動を支援	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
貸出サービスの充実	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
公共施設の適切な利用の習慣づけ	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
除籍になった本等を町民還元し読書活動への関心を高める	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
図書館の仕事を知る機会の提供	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
本と出会う機会を提供し、各家庭での読み聞かせ及び読書習慣の定着を図る	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
学校等関係機関との協力による参加奨励（第31回）	検証・継続 （第32回）	検証・継続 （第33回）	検証・継続 （第34回）	
教室開催、指導者派遣等の各種スポーツ相談 学校開放事業と連動した自主的活動の支援 指導者の発掘及び養成	検証・継続	検証・継続	検証・継続	
「らいず」が主催する各種事業の企画・運営に対する協力・支援及び連携	検証・継続	検証・継続	検証・継続	
リーダー研修会の実施や参加奨励 各種大会や教室でのリーダーの活躍の場の提供	検証・継続	検証・継続	検証・継続	
中学校部活動の地域移行をはじめとした羅臼町スポーツの在り方の検討	検証・継続	検証・継続	検証・継続	
「らいず」と連携した事業の推進（体力測定会等）	検証・継続 （調査研究、データ収集）	検証・継続 （調査研究、データ収集）	検証・継続 （調査研究、データ収集）	
ふるさと少年探険隊の中での連携プログラムの実施	検証・継続	検証・継続	検証・継続	
ふるさと体験教室の中での連携プログラムの実施	検証・継続	検証・継続	検証・継続	
体験活動プログラムの配布	検証・継続	体験活動プログラムの改定・配布	検証・継続	

第3節 青年教育

【現状】

<社会教育活動>

- ・羅臼町活性化ワーキンググループ等、町の課題に目を向けて自主的な取り組みを行っている青年グループの活動が見られる。20歳学園や青年町外先進地視察研修事業等の連携を図りながら、青年の組織的な活動と交流は徐々に増えている。しかし、一方で既存団体の青年組織は人数減少による衰退が著しく、活動の継続も困難な状況である。
- ・高校生の活動支援を重点に進めてきており、創作料理プロジェクトやうるとらうす実行委員会等、活発な活動を継続してきているが、加入人数等は年によって変動があるため安定的な活動とは言えず、個人のモチベーションにも格差がある。

<芸術・文化活動>

- ・かつて複数存在した青年の音楽グループや郷土芸能知床いぶき樽の演奏活動は、中・高生の文化祭や予餞会などで時々見られるが、現在、日常的な活動はほぼ確認できていない。また、芸術文化活動として現在青年層の参加が確認できるのは少年～青年で構成するマーチングバンド「知床ブルーイーグルス」や少年～高齢者で構成する混声合唱団「コールリンデンバウム」の音楽活動のほか、華道や茶道などの文化活動で一部青年層の参加が見られるのみ。
- ・芸術文化の楽しみ方・芸術文化に触れる機会も現在ではITやSNSによるなど、以前とは違ってきており、また青年個々の興味・関心の対象も多様化しており、集団で作り上げる苦労や楽しみ・達成感などを体験する機会が減っている。

<図書館活動>

- ・中・高生～成人までは「はざまの世代」と呼ばれている世代で、勉学や部活動など読書以外の活動が活発化する時期であるため、これまでに読書活動が定着している子どもでも、読書から距離ができる傾向にある。
- ・図書館バスで町内を巡回するが、一般利用者向けの巡回場所での中・高生の利用はない。また、中学校では、図書委員会が学年ごとに学級文庫を借りているが、個人での利用はない。
- ・「はざま」世代の流行の移り変わりはスピードが速く、大人が流行を汲み取って、蔵書を補充したとしても、流行とはタイムラグが発生し、蔵書の準備ができた時点では、流行はすでに別のものへ移り変わっている。そのため「読みたい本がない」と感じているのではないかと考えられる。

<社会体育活動>

- ・コロナ禍により、団体スポーツ活動が停滞していたが、徐々に活動が活発になってきている。
- ・団体スポーツが人口減少により、チーム数が減少している。
- ・現状のスポーツ離れを脱却させるため、スポーツ機会の提供を推進する必要がある。
- ・部活動の地域移行については、関係者による協議会を設立し、検討が開始されている。

<郷土資料館活動>

- ・青年に狙いを定めた、積極的な講座の開催等は実施していないが、羅臼高等学校からの求めに応じて、知床学等の授業を行っており、羅臼の歴史・文化・自然について学習する機会の提供を図っている。また、学務課が所管する知床学副読本作成や知床学士検定等への協力を図っている。

【課題】**<社会教育活動>**

- (1)これからのまちづくりの担い手として期待される青年の活発な活動や社会参加が必要であり、そのために町や団体の課題解決に自主的に取り組む青年の育成が必要である。
- (2)うるとらうす！実行委員会や創作料理プロジェクト等、高校生の活動について安定的な活動を維持するため、事業の目的や意義等を確認し、同一の目標を目指すなどの一体感を作り出す仕掛け、指導助言が必要である。
- (3)達成感を得られるような活動へのアプローチ・仕掛けが必要である。

<芸術・文化活動>

- (1)多様化する青年層の興味・関心の対象を把握し、社会教育として振興する芸術文化活動に関わる施策を整理する必要がある。
- (2)他団体と連携し、青年層が芸術文化に触れ・体験する機会を創出することが必要である。
- (3)社会人として備えてほしい企画力や実行力等を培うため、そのプロセスを体験できる「うるとらうす（＝自らが芸術文化鑑賞機会の提供者となる取り組み）」を継続していく必要がある。

<図書館活動>

- (1)青年層の興味・関心の対象に関して、情報収集を積極的に行っていく必要がある。
- (2)学校図書館とも連携しながら、青年層を巻き込んだ読書活動を検討する必要がある。

<社会体育活動>

- (1)スポーツ人口減少のため、青年がスポーツに触れる機会の提供が必要である。
- (2)中学校部活動の地域移行をはじめ、今後の羅臼町全体のスポーツ振興の在り方を検討する必要がある。
- (3)各種スポーツ事業を通じて人材の発掘・養成が必要である。

<郷土資料館活動>

- (1)知床学の授業等、羅臼高等学校の要望に応じた学習機会の提供が必要である。

第3節 青年教育

【推進項目】

<社会教育活動>

- * 町内青年組織同士の繋がりを作るための研修や交流の機会提供を行い、各組織及び町の課題解決に向けた連携強化を図る。
- * 高校生が取り組む活動に対し、継続的且つ安定的な支援を行う。

<芸術・文化活動>

- * 青年層との情報交換の場を創出し施策を検討する。
- * 他団体と連携し芸術文化に触れ・体験する機会を提供する。
- * 芸術文化鑑賞事業を通じてまちづくりに関わる人材育成を図る。

<図書館活動>

- * 蔵書検索システムを活用し、利用促進を図る。
- * 学校図書館と連携した青年層を中心とする読書活動の検討を図る。

<社会体育活動>

- * 競技スポーツの推進やスポーツに触れる機会の提供を図るため、関係団体と連携し著名な講師等を招聘したスポーツイベントや教室を開催・支援する。
- * 各種事業を通じ、人材の発掘と養成を図る。
- * 羅臼町のスポーツ・文化の在り方検討協議会で推進体制などの方向性を確立させる。

<郷土資料館活動>

- * 羅臼高等学校の要望に応じた学習機会の提供を行う。

【事業ごとのSDGs対応表】

領域	事業名	特に関連するSDGs項目				
社会教育活動	高校生の水産教室					
	20歳のつどい					
	創作料理プロジェクト					
	うるとらうす！実行委員会					
	リーダー養成事業					
芸術・文化活動	情報収集～施策検討					
	各種教室・講座、相談事業					
	芸術文化鑑賞事業					
	ロビー・ホール展示事業					
	総合文化祭					
図書館活動	らうす古本市					
	図書館バス巡回事業					
	家読推進事業					
	中高生の読書活動推進事業					
社会体育活動	クナシリ眺望駅伝競走大会					
	スポーツ相談事業					
	総合型地域スポーツクラブ協働事業					
	リーダー養成事業					
	羅臼町のスポーツ・文化の在り方検討協議会					
活動 郷土資料館	郷土資料館体験学習講座					

第3節 青年教育

分野	推進項目	事業名	対象	関係機関
社会教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・町内青年組織同士の繋がりを作るための研修や交流の機会提供を行い、各組織及び町の課題解決に向けた連携強化を図る。 ・高校生が取り組む活動に対し、継続的且つ安定的な支援を行う。 	高校生の水産教室	高校3年生	高校 漁業協同組合
		20歳のつどい	20歳	20歳のつどい実行委員会
		創作料理プロジェクト	高校生	高校 漁業協同組合 飲食業連合会 商工会 観光協会
		うるとらうす！ 実行委員会	高校生 青年	高校
		リーダー養成事業	高校生 青年 成人	高校 町内青年団体組織 (漁協・商工会等) 羅臼町活性化WG
芸術・文化活動	<ul style="list-style-type: none"> ・青年層との情報交換の場を創出し施策を検討する。 ・他団体と連携し、芸術文化に触れ・体験する機会を提供する。 ・芸術文化鑑賞事業を通じてまちづくりに関わる人材育成を図る。 	情報収集～施策検討	青年	高校 各産業団体等
		各種教室・講座 相談事業	青年～高齢者 5名以上のグループ	各種団体
		芸術文化鑑賞事業	少年～高齢者	実行委員会 (うるとらうす実行委員会)
		ロビー・ホール展示事業	幼児～高齢者	文化協会 サークル 学校等各団体
		総合文化祭	幼児～高齢者	文化祭実行委員会

事業推進の年度別指標				
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	事業内容充実と継続 (第40次)	検証・継続 (第41次)	検証・継続 (第42次)	検証・継続 (第43次)
	実行委員会への指導・助言	検証・継続	検証・継続	検証・継続
	商品の販売を通じた学習機 会の提供 地元食材を使ったメニュー 開発及び発信による羅白町 のPR	検証・継続	検証・継続	検証・継続
	実行委員会への指導・助言	検証・継続	検証・継続	検証・継続
	各事業との連動 団体間の交流促進	検証・継続 団体間連携の強化	検証・継続	検証・継続
	各産業団体等と連携し、座 談会や夜なべ談義など集 い・語らいの機会を創出し 芸術鑑賞事業や町づくり につながる企画等の実践に 繋げる。	検証・継続	検証・継続	検証・継続
	芸術・文化に関する各種 教室・講座を企画・開催 するほか、各種グループ等 の相談に応じるなど、自 主的な活動を促進・支 援する。	検証・継続	検証・継続	検証・継続
	高校生と青年層による 実行委員会を組織して 生の芸術・文化鑑賞機 会を町民に提供する。 実行委員会の取組みを 通じて人の繋がりを築 き、地域に興味関心を持 つきっかけを醸成する。	検証・継続	検証・継続	検証・継続
	※少年教育参照	検証・継続	検証・継続	検証・継続
	※少年教育参照	検証・継続	検証・継続	検証・継続

第3節 青年教育

分野	推進項目	事業名	対象	関係機関
図書館活動	<ul style="list-style-type: none"> ・蔵書検索システムを活用し、図書室の利用促進を図る。 ・学校図書館と連携した青年層を中心とする読書活動の検討を図る。 	らうす古本市	幼児～高齢者	文化祭実行委員会
		図書館バス巡回事業	乳幼児～高齢者	幼稚園 小学校 中学校 子育て支援センター
		家読推進事業	乳幼児～成人	幼稚園 小学校 中学校 高校 子育て支援センター
		中・高生の読書活動推進事業	中・高生	中学校 高校
社会体育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・競技スポーツの推進やスポーツに触れる機会の提供を図るため、関係団体と連携し著名な講師等を招聘したスポーツイベントや教室を開催・支援する。 ・各種事業を通じ、人材の発掘と養成を図る。 ・羅臼町のスポーツ・文化の在り方検討協議会で推進体制などの方向性を確立させる。 	クナシリ眺望駅伝競走大会	小学4年生以上	クナシリ眺望駅伝競走大会 実行委員会
		スポーツ相談事業	小・中学生 保護者 指導者 (5名以上のグループ)	社会体育団体 羅臼スポーツクラブらいざ スポーツ少年団本部
		総合型地域スポーツクラブ協働事業 (スポーツ教室等の開催)	小・中学生 保護者 指導者	羅臼スポーツクラブらいざ
		指導者養成事業	青年 成人	スポーツ協会 スポーツ少年団本部 羅臼スポーツクラブらいざ
		羅臼町の文化・スポーツの在り方検討協議会	小学生～成人	羅臼町のスポーツ・文化の在り方検討協議会
郷土資料館活動	<ul style="list-style-type: none"> ・羅臼高等学校の要望に応じた学習機会の提供を行う。 	郷土資料館体験学習講座	幼児～高齢者	高校

事業推進の年度別指標				
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
除籍になった本等を町民還元し読書活動への関心を高める	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
貸出サービスの充実	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
本と出会う機会を提供し、各家庭での読み聞かせ及び読書習慣の定着を図る	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
中・高生を巻き込んだ図書館活動を行うことで、中・高生の読書活動への興味・関心を高める	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
学校等関係機関との協力による参加奨励 (第31回)	検証・継続 (第32回)	検証・継続 (第33回)	検証・継続 (第34回)	検証・継続 (第34回)
教室開催、指導者派遣等の各種スポーツ相談 学校開放事業と連動した自主的活動の支援 指導者の発掘及び養成	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
「らいず」が主催する各種事業の企画・運営に対する協力・支援及び連携	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
リーダー研修会の実施や参加奨励 各種大会や教室におけるリーダーの活躍の場の提供	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
中学校部活動の地域移行をはじめとした羅臼町スポーツの在り方の検討	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
郷土資料館体験学習講座 (全3回)	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続

【現状】

<社会教育活動>

- ・地域の成人の社会教育活動における活躍の場が少ない。
- ・コミュニティースクールの導入から地学協働の動きが現れ始めている。

<芸術・文化活動>

- ・当町の成人が取り組む芸術・文化活動では、華道や陶芸、手芸、絵手紙、俳句などの創作活動や混声合唱団やカラオケ、三味線や民謡など音楽関係の活動団体が見られるが、自主企画事業（展示・発表、教室・講座等の開催など）の取り組みには消極的で、会員拡大の動きも鈍く、会員減少の傾向にある。このため活動が先細り傾向であり、活動者拡大に向けた既存の団体と連携した教室・講座の開催や新たな町民ニーズの調査とそれに対応した機会提供を進めることが必要である。
- ・一部、個人で絵画や手芸・工芸などの創作活動を行っている者も見られる。

<図書館活動>

- ・資料のリクエスト時に、蔵書検索画面を見せてくる利用者も増え、図書館 HP や蔵書検索システムが町民に浸透してきている。
- ・図書館バスで町内を巡回し、図書館から距離のある場所でも本が借りられるように、継続して巡回を実施している。
- ・現在の臨時開設している図書館は、閲覧用の椅子・テーブルがあるものの、書架から近い場所にあたり、通路に面していたりと、図書館で読書をしながらかゆったりとした時間を過ごすことができない現状である。全国的に図書館が「借りる場所」から「滞在する場所」へと役割が変化してきている状況の中、現在の図書館は「滞在する場所」としては役割を果たせていないと考える。

<社会体育活動>

- ・青年期からのスポーツ離れが進み、成人期でのスポーツ人口減少に繋がっている。
- ・健康増進のために運動等の取り組みをしている個人は一定数見られる。
- ・中学校部活動の地域移行については、関係者による協議会を設立し、検討が開始されている。

<郷土資料館活動>

- ・団体等と連携したふるさと体験講座の実施等により、これまで利用があまり見られなかった方の講座参加があるなど、自らの地域について様々な角度から学び、理解を深めることに繋がった。ただ、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、当初想定していた事業展開が図れていない部分もあり、羅臼の歴史・文化・自然について学習する機会を十分に提供することができていない。

【課題】**<社会教育活動>**

- (1)PTA との協働による事業展開、若しくはコミュニティースクールの活動活性化による地域人材の活用が必要である。
- (2)子どもの育ちを支えるために地域の理解と協力を得て、子育てボランティア等の活動が必要である。

<芸術・文化活動>

- (1)既存団体の現状を把握し、日常の活動活発化の促進（やる気の醸成）と合わせ、新たな活動者を発掘する（つなぐ）ための団体と連携した教室・講座等の開催を促進・支援する必要がある。
- (2)新たな町民ニーズに応じ、町外からの講師招聘も視野に教室・講座・講習会等を企画・開催する必要がある。

<図書館活動>

- (1)図書館 HP や蔵書検索システムでの継続的な情報発信が必要である。
- (2)貸出・返却の利便性を高めるためにも、今後も図書館バスの巡回を継続して実施していく必要がある。

<社会体育活動>

- (1)町民のスポーツニーズを把握する必要がある。
- (2)中学校部活動の地域移行をはじめ、今後の羅臼町全体のスポーツ振興の在り方を検討する必要がある。
- (3)競技スポーツ指導者の発掘・養成を図る必要がある。
- (4)参加しやすいスポーツ機会の提供を図る必要がある。
- (5)既存スポーツ団体の活動や活動継続のための支援が必要である。

<郷土資料館活動>

- (1)羅臼の歴史・文化・自然について学ぶための継続した学習機会の提供を図る必要がある。
- (2)体験講座によっては、ターゲットがわかりにくく、参加しにくい側面があることから周知方法等に検討が必要である。
- (3)郷土資料館の活動を周知するうえでも各種団体等と連携した講座の開催について検討が必要である。

第4節 成人教育

【推進項目】

<社会教育活動>

- * PTA 及びコミュニティースクールの活動について、既存事業や団体、地域との連携による活動の活性化を図る。
- * 「緒むすび」と町内の子育て世代及び子育て経験者が、連携協力できる体制整備を図る。

<芸術・文化活動>

- * 既存団体と連携した教室・講座等の開催を促進・支援し活動の活性化を図る。
※生活文化の伝承なども視野に。
- * 魅力ある新たな教室・講座等を企画し、活発な芸術文化活動を振興する。
※羅臼の風土を生かす or 風土に合った or 風土に根付かせたい…芸術・文化活動
例えば創作料理教室の仕掛け～料理研究会等への発展も視野に。

<図書館活動>

- * 生涯学習に応えるための資料を収集し、整備を図る。
- * 蔵書検索システムを活用し、利用促進を図る。

<社会体育活動>

- * スポーツニーズを把握し、スポーツイベントを実施する。
- * 羅臼町のスポーツ・文化の在り方検討協議会で推進体制などの方向性を確立させる。
- * 保健福祉行政と連携し、健康づくり事業の機会提供を図る。

<郷土資料館活動>

- * 羅臼の歴史・文化・自然について継続して学習できる機会の提供を図る。
- * 体験学習講座の周知の工夫を図る。
- * 各種団体と連携した講座の開催を検討し、実施する。
- * 資料を介して人と人をつなぐプログラムの検討を図る。

【事業ごとのSDGs対応表】

領域	事業名	特に関連するSDGs項目				
活動 社会教育	家庭教育支援事業					
	コミュニティースクール関連事業					
芸術・文化活動	各種教室・講座、相談事業					
	新たな創作活動の振興					
	芸術文化鑑賞事業					
	ロビー・ホール展示事業					
	総合文化祭					
図書館活動	本との出会い講座・講演会					
	らうす古本市					
	図書館バス巡回事業					
	図書資料整備事業					
	蔵書検索システムの継続					
	オンラインシステムを活用した情報発信					
社会体育活動	スポーツ相談事業					
	クナシリ眺望駅伝競走大会					
	総合型地域スポーツクラブ協働事業					
	羅臼町のスポーツ・文化の在り方検討協議会					
	指導者養成事業					
活動 郷土資料館	郷土資料館体験学習講座					
	郷土資料館巡回展					

第4節 成人教育

分野	推進項目	事業名	対象	関係機関
社会教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA及びコミュニティースクールの活動について、既存事業や団体、地域との連携による活動の活性化を図る。 ・「緒むすび」と町内の子育て世代及び子育て経験者が、連携協力できる体制整備を図る。 	家庭教育支援事業	保護者 成人	小・中学校 高校 PTA 子どもの自律・親育ち応援 チーム「緒むすび」
		コミュニティースクール 関連事業	保護者 成人	学校運営協議会
芸術・文化活動	<ul style="list-style-type: none"> ・既存団体と連携した教室・講座等の開催を促進・支援し活動の活性化を図る。 ※生活文化の伝承なども視野に。 ・魅力ある新たな教室・講座等を企画し、活発な芸術文化活動を振興する。 ※羅臼の風土を生かす or 風土に合った or 風土に根付かせたい …芸術・文化活動 例えば創作料理教室の仕掛け～料理研究会等への発展も視野に。 	各種教室・講座 相談事業	青年～高齢者 5名以上のグループ	各種団体
		新たな創作活動の振興	青年～高齢者	文化団体
		芸術文化鑑賞事業	少年～高齢者	実行委員会
		ロビー・ホール展示事業	少年～高齢者	サークル 学校等各団体
		総合文化祭	幼児～高齢者	文化祭実行委員会

事業推進の年度別指標				
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	コミュニティースクールとの連携強化 子育てボランティア等の地域ボランティアの人材発掘・養成	検証・継続	検証・継続	検証・継続
	コミュニティースクールの活動に関する積極的な情報発信 町内団体との連携強化	検証・継続	検証・継続	検証・継続
	※青年教育参照	検証・継続	検証・継続	検証・継続
	町外からの講師招聘も視野に新たな魅力ある教室・講座・講習会等を企画・開催し、町内における芸術文化活動・創作活動を振興し活性化を図る。 郷土の風土・生活文化を生かした創作活動の振興を模索する。(例えば創作料理研究会のような団体の立ち上げなどを視野に)	検証・継続	検証・継続	検証・継続
	※少年教育参照	検証・継続	検証・継続	検証・継続
	※少年教育参照	検証・継続	検証・継続	検証・継続
	※少年教育参照	検証・継続	検証・継続	検証・継続

第4節 成人教育

分野	推進項目	事業名	対象	関係機関
図書館活動	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習に応えるための資料を収集し、整備を図る。 蔵書検索システムを活用し、利用促進を図る。 	本との出会い講座・講演会	幼児・児童 保護者	幼稚園 小学校 子育て支援センター
		らうす古本市	幼児～高齢者	文化祭実行委員会
		図書館バス巡回事業	乳幼児～高齢者	幼稚園 小学校 中学校 子育て支援センター
		図書資料整備事業	乳幼児～高齢者	
		蔵書検索システムの継続	乳幼児～高齢者	
		オンラインシステムを活用した情報発信	乳幼児～高齢者	
社会体育活動	<ul style="list-style-type: none"> スポーツニーズを把握し、スポーツイベントを実施する。 羅臼町のスポーツ・文化の在り方検討協議会で推進体制などの方向性を確立させる。 保健福祉行政と連携し、健康づくり事業の機会提供を図る。 	スポーツ相談事業	成人 (5名以上のグループ)	社会体育団体 保健福祉課 羅臼スポーツクラブらいず
		クナシリ眺望 駅伝競走大会	小学4年生以上	クナシリ眺望駅伝競走大会 実行委員会
		総合型地域スポーツ クラブ協働事業 (スポーツ教室等の開催)	成人	羅臼スポーツクラブらいず
		羅臼町のスポーツ・文化の 在り方検討協議会	小学生～成人	羅臼町のスポーツ・文化の 在り方検討協議会
		指導者養成事業	成人	スポーツ協会 スポーツ少年団本部 羅臼スポーツクラブらいず
郷土資料館活動	<ul style="list-style-type: none"> 羅臼の歴史・文化・自然について継続して学習できる機会の提供を図る。 体験学習講座の周知の工夫を図る。 各種団体と連携した講座の開催を検討し、実施する。 資料を介して人と人をつなぐプログラムの検討を図る。 	郷土資料館体験学習講座	幼児～高齢者	
		郷土資料館巡回展	成人～高齢者	

事業推進の年度別指標				
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	読書への興味付けを図る機会提供	検証・継続	検証・継続	検証・継続
	除籍になった本等を町民還元し読書活動への関心を高める	検証・継続	検証・継続	検証・継続
	貸出サービスの充実	検証・継続	検証・継続	検証・継続
	町民の要求に適したきめ細かな対応	検証・継続	検証・継続	検証・継続
	町民の利便性を保持し、図書館活動の推進	検証・継続	検証・継続	検証・継続
	システム内のページを活用した図書情報の発信	検証・継続	検証・継続	検証・継続
	教室開催、指導者派遣等の各種スポーツ相談 学校開放事業と連動した自主的活動の支援 保健福祉行政と連携した出前教室の開催 町民やサークルに対する相談窓口の周知	検証・継続	検証・継続	検証・継続
	競技志向の参加者にも対応した内容検討（第31回）	検証・継続 （第32回）	検証・継続 （第33回）	検証・継続 （第34回）
	「らいず」が主催する各種事業の企画・運営に対する協力・支援及び連携	検証・継続	検証・継続	検証・継続
	中学校部活動の地域移行をはじめとした羅臼町スポーツの在り方の検討	検証・継続	検証・継続	検証・継続
	各種指導者研修会、ニュースポーツ講習会等の実施や参加奨励 ニーズに応じた生涯スポーツに繋がる各種資格認定制度の情報提供	検証・継続	検証・継続	検証・継続
	郷土資料館体験学習講座（全3回）	検証・継続	検証・継続	検証・継続
	町内施設や管内施設での巡回展の実施	検証・継続	検証・継続	検証・継続

【現状】

<社会教育活動>

- ・高齢者教育は、こまぐさ学級による生きがいづくりと羅臼町総合文化祭での自身の活動の成果発表のみとなっている。

<芸術・文化活動>

- ・高齢者対象のこまぐさ学級は、毎年18～20名弱の登録申込みがあるが、参加者が固定化しており、男性参加者はごく少数である（男性不在の年もある）ため、各プログラムやクラブ活動の題材が女性志向になりがちである。
- ・男性も興味を引くようなプログラムも取り入れた募集を試行してみることも必要か。
- ・また、芸術文化活動の高みを目指す（技術を磨く・極める）というより、楽しみや生活の充実のための活動といった志向が強いように思われる。

<図書館活動>

- ・館内閲覧や調べものをしたい高齢者に対して、テーブルが館内奥に設置されていたり、新聞コーナー付近にテーブルがない、老眼鏡がカウンター横に1セットのみ設置されているなど、高齢者が利用しやすい館内環境とは言えない状況である。
- ・館内書架スペースに限界があり、大活字本の多くが郷土資料館に配架されているため、大活字本の利用が少ない状況である。

<社会体育活動>

- ・健康づくり事業に男性の参加者が少なく、また参加者が固定化されている。
- ・総合型地域スポーツクラブらと保健福祉課が連携して、介護予防のための事業提供がされている。

<郷土資料館活動>

- ・社会教育事業と連携し、高齢者向けの講座を実施している。昔の写真や道具を介して自分の体験を語り合ったり、過去に思いを巡らす機会の提供を図っている。
- ・コロナ禍により、町内の高齢者による資料館の団体見学等の利用はなくなってしまっている。
- ・昭和30年代～40年代の歴史については、羅臼町史等で記録されているが、生活の体験等の記録はあまり残されていないことから、高齢者に対する聞き取りが必要となってきている。

【課題】

＜社会教育活動＞

- (1)こまぐさ学級のプログラムとして異世代交流が図られているが、高齢者の知識や経験を異世代に伝える場が少なく、互いの学びを深める新たな機会の創出が必要である。

＜芸術・文化活動＞

- (1)こまぐさ学級以外で、芸術文化活動に関する高齢者のニーズを把握する必要がある。

＜図書館活動＞

- (1)町の土地の形状や交通網の関係などの理由から、図書館に来館しづらい高齢者は多く、今後も図書館バスの巡回を継続して実施していく必要がある。
- (2)継続して大活字本の利用促進のための整備を行う必要がある。

＜社会体育活動＞

- (1)男性が参加しやすい事業の検討が必要である。
- (2)関係団体と連携した高齢者スポーツ機会提供や介護予防事業の継続を支援する必要がある。

＜郷土資料館活動＞

- (1)高齢者向けの講座やプログラムの整備は図れてきたことから、これの周知が必要である。
- (2)羅臼の昔のことを知る高齢者への聞き取りが必要となっており、その方法等も含めて検討を図る必要がある。

【推進項目】

<社会教育活動>

- * 高齢者が参加しやすい機会の提供や環境整備を図る。
- * 高齢者が講師として活躍する機会の提供を図る。
- * こまぐさ学級において、オープンプログラムを実施し、こまぐさ学級生の拡大を図る。
- * 社会福祉協議会及び老人クラブ等と連携し、新たな学習機会の創出を図る。

<芸術・文化活動>

- * 高齢者が親しみやすい芸術文化活動・創作活動のプログラムを企画・提供する。
(こまぐさ学級のオープン参加プログラムの設定なども視野に。)
- * 高齢者の知恵や技術を活かしたり、生活文化に関する伝承等、活躍の場を提供する。

<図書館活動>

- * 大活字本の整備等、高齢者への読書支援を行う。

<社会体育活動>

- * 社会福祉協議会等と連携し、男性が参加しやすい事業を提供する。
- * 総合型地域スポーツクラブと連携し、スポーツ機会の提供を図る。
- * 健康づくり事業の提供を図る。

<郷土資料館活動>

- * 高齢者に向けた講座・プログラム等についての周知を図る。
- * 高齢者への聞き取りを行うきっかけとして、高齢者を対象とした講座等を実施する。

【事業ごとの SDGs 対応表】

領域	事業名	特に関連する SDGs 項目			
活動 社会教育	こまぐさ学級（他団体との連携）				
芸術・文化活動	各種教室・講座、相談事業				
	新たな創作活動の振興				
	こまぐさ学級				
	芸術文化鑑賞事業				
	ロビー・ホール展示事業				
	総合文化祭				
図書館活動	らうす古本市				
	図書館バス巡回事業				
	図書資料整備事業				
社会体育活動	スポーツ相談事業				
	総合型地域スポーツクラブ協働事業				
郷土資料館活動	郷土資料館体験学習講座				
	郷土資料館巡回展				
	体験活動プログラム活用推進事業				

第5節 高齢者教育

分野	推進項目	事業名	対象	関係機関
社会教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が参加しやすい機会の提供や環境整備を図る。 ・高齢者が講師として活躍する機会の提供を図る。 ・こまぐさ学級において、オープンプログラムを実施し、こまぐさ学級生の拡大を図る。 ・社会福祉協議会及び老人クラブ等と連携し、新たな学習機会の創出を図る。 	こまぐさ学級 (他団体との連携)	高齢者	幼稚園 保健福祉課 高校 診療所 社会福祉協議会 老人クラブ
芸術文化活動	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が親しみやすい芸術文化活動・創作活動のプログラムを企画・提供する。 (こまぐさ学級のオープン参加プログラムの設定なども視野に) ・高齢者の知恵や技術を活かす機会や、生活文化に関する伝承等、活躍の場を提供する。 	各種教室・講座 相談事業	青年～高齢者 5名以上のグループ	各種団体
		新たな創作活動の振興	青年～高齢者	文化団体
		こまぐさ学級	高齢者	幼稚園 保健福祉課 診療所 高校
		芸術文化鑑賞事業	少年～高齢者	実行委員会
		ロビー・ホール展示事業	少年～高齢者	サークル 学校等各団体
		総合文化祭	幼児～高齢者	文化祭実行委員会
図書館活動	<ul style="list-style-type: none"> ・大活字本の整備等、高齢者への読書支援を行う。 	らうす古本市	幼児～高齢者	文化祭実行委員会
		図書館バス巡回事業	乳幼児～高齢者	幼稚園 小学校 中学校 子育て支援センター
		図書資料整備事業	乳幼児～高齢者	
社会体育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会等と連携し、男性が参加しやすい事業を提供する。 ・総合型地域スポーツクラブと連携し、スポーツ機会の提供を図る。 ・健康づくり事業の提供を図る。 	スポーツ相談事業	高齢者 (5名以上のグループ)	社会体育団体 保健福祉課 社会福祉協議会 羅臼スポーツクラブらいず
		総合型 地域スポーツクラブ 協働事業	高齢者	羅臼スポーツクラブらいず
郷土資料館活動	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に向けた講座・プログラム等についての周知を図る。 ・高齢者への聞き取りを行うきっかけとして、高齢者を対象とした講座等を実施する。 	郷土資料館 体験学習講座	少年～高齢者	
		郷土資料館巡回展	成人～高齢者	
		体験活動プログラム 活用推進事業	高齢者	

	事業推進の年度別指標			
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
他団体と連携した新たな学習プログラムの創出	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
※青年教育参照	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
※成人教育参照	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
こまぐさ学級を通じて芸術・文化に親しむ活動や異世代交流による知恵や技術や生活文化に関する伝承活動をはじめ、生きがい感の持てるプログラムを提供する。	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
※少年教育参照	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
※少年教育参照	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
※少年教育参照	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
除籍になった本等を町民還元し読書活動への関心を高める	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
貸出サービスの充実	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
町民の要求に適したきめ細かな対応	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
教室開催、指導者派遣等の各種スポーツ相談 町民やサークルに対する相談窓口の周知 保健福祉行政や社会福祉協議会と連携した出前教室の開催				検証・継続
「らいず」が主催する各種事業の企画・運営に対する協力・支援及び連携	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
郷土資料館体験学習講座 (全3回)	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
町内施設や管内施設での巡回展の実施	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
高齢者プログラムの周知	高齢者プログラムの実施	検証・継続	検証・継続	検証・継続

【現状】

<社会教育活動>

- ・在任職員が令和5年度中に社会教育主事講習の全カリキュラムを修了予定。
- ・コミュニティースクールの導入により、学校と地域が協働する基盤が整備されたが、本格的な運用には至っていない。
- ・学校行事補完事業について、事業の運営員会で学校内の評価との比較の難しさから、事業開催について異議が出された経緯がある。

<芸術・文化活動>

- ・推進体制の要である専門職員については現在、社会教育主事を1名養成中であるが、芸術・文化活動の促進・支援も視野に、これを担う専門職員を複数配置することが望ましい。しかし、現状では専門職を志す人材が乏しいことや、町全体の職員数もコンパクトになってきているため、専門職の養成が一層難しくなっている。

<図書館活動>

- ・平成30年度から現在まで、道の事務加配により学校司書が継続的に確保できている。
- ・「子どもの読書活動に関する法律」（平成13年12月施行）に基づき、「第2期羅臼子どもの読書活動推進計画」（令和3年度～令和6年度）を策定している。令和3年度～令和6年度はこれに基づき活動を行っている。
- ・現在、図書館司書1名体制となっている。選書や除籍の際に、主観や偏った判断が入らないように努めているが、複数名体制の方がより幅広い視点と視野で蔵書の魅力化を図ることができると考える。
- ・図書司書2名体制の実現に向けて継続した職員募集を実施している。

<社会体育活動>

- ・各種スポーツ団体や個人に内在する課題の把握ができていない。
- ・町民スキー場のリフト休止以降、身近に冬季スポーツを実施できる場所がない。
- ・指導者の発掘・養成を図る必要がある。
- ・部活動の地域移行については、関係者による協議会を設立し、検討が開始されている。
- ・スポーツ振興のための専門人材の配置がされていない。

<郷土資料館活動>

- ・郷土資料館の展示やふるさと学習の基礎となる、各種文化財の保護調査を進めている。また、文化財については、国より地域文化財保存活用計画の策定を求められているが、現在の体制では着手が困難となっている。
- ・保管している郷土資料の活用として、新たに北方四島展示室、知床いぶき樽展示室の開室を行っているが、知床いぶき樽展示室では、演奏を行っている映像記録は見ることはできないため、今後整備について検討が必要である。
- ・郷土資料館の来館者は、新型コロナウイルス感染症の拡大により減少している。この間、日本遺産推進事業により重要文化財『北海道松法川北岸遺跡出土品』を核としたサブストーリー作成や、普及啓発資料・映像資料・レプリカ作成、多言語化を行い、アフターコロナに向けた資料館利用推進を図っている。

【課題】

<社会教育活動>

- (1)社会教育主事有資格者の継続的な確保が必要である。
- (2)地学協働活動推進委員の育成・発掘のための研修機会の提供が必要である。
- (3)学校行事補完事業は、小・中学生にとって貴重な芸術鑑賞事業及び学習成果発表の機会となっていることから、評価の廃止等、学校側でネックとなっている部分の修正などの議論が必要である。

<芸術・文化活動>

- (1)昇格など人事異動による人の動きも見据えた計画的な専門職員の養成・配置を提案・要望する必要がある（予算確保も含め）。
- (2)社会教育施設整備の検討を含め、文化団体や社会教育関係団体との懇談会開催により、芸術・文化活動の活性化を醸成する必要がある。

<図書館活動>

- (1)学校司書（司書有資格者）の継続的な確保が必要である。
- (2)図書館司書の複数配置を図る必要がある。
- (3)令和6年度に「第3期子どもの読書活動推進計画」を策定する。

<社会体育活動>

- (1)スポーツニーズを把握し、施策の検討をする必要がある。
- (2)中学校部活動の地域移行をはじめ、今後の羅臼町全体のスポーツ振興の在り方を検討する必要がある。
- (3)スポーツ振興のための専門人材を配置する必要がある。

<郷土資料館活動>

- (1)各種文化財の保護は普及活動を進めるうえでも重要であり、今後とも継続して実施する必要がある。
- (2)収蔵資料の台帳作成を継続して実施し、その活用方法について検討する必要がある。
- (3)地域文化財保存活用計画の策定のための体制確保及び策定済み自治体への調査が必要である。
- (4)日本遺産『鮭の聖地』の物語を構成する標津町、根室市、別海町と連携し、郷土資料館の利用促進を図る必要がある。

第6節 基盤整備（推進体制）

【推進項目】

<社会教育活動>

- * 研修等を通じて、地域ぐるみで子ども達を育てることの意識の醸成を図る。
- * 社会教育関係職員の適正配置と研修機会の充実を図る。
- * コミュニティースクールの学校区ごとに部会を設置し、部会を中心とした地学協働活動の推進を図る。
- * 社会教育委員の知識向上のための研修機会の充実を図る。
- * 学校行事補完事業の重要性を再認識し、子ども達の学習機会を確保する。
- * 地域講師人材の整理（リスト化等）を行う。

<芸術・文化活動>

- * 専門職員の適正配置と、文化団体や芸術文化活動に取り組む町民を支援する推進体制を堅持する。

<図書館活動>

- * 司書を適正配置し、図書館及び学校図書館運営の支援を行う推進体制をつくる。

<社会体育活動>

- * 町民ニーズを把握しスポーツ振興を図る。
- * らいずと連携し冬季スポーツの提供を図る。
- * 保健福祉行政と障がい者スポーツについて検討する。
- * 町のスポーツ振興のため専門人材の活用を検討する。
- * 羅臼町のスポーツ・文化の在り方検討協議会で、推進体制などの方向性を確立させる。

<郷土資料館活動>

- * 継続的な文化財の保護活動を実施する。
- * 郷土資料の台帳を作成する。
- * 知床いぶき樽の演奏映像の整理を図り、活用を検討する。
- * 地域文化財保存活用計画の策定市町村への調査を実施する。
- * 資料館運営体制の確保についても検討を図る。
- * 日本遺産『鮭の聖地』の物語を構成する標津町、根室市、別海町と連携し、郷土資料館の周知及び利用促進を図る。

【事業ごとのSDGs対応表】

領域	事業名	特に関連するSDGs項目				
社会教育活動	社会教育委員の会					
	学校行事補完事業					
	各種教育団体派遣助成事業（文化団体）					
	コミュニティースクール（地学協働活動）					
	社会教育関係職員研修					
芸術・文化活動	各種団体との懇談会					
	郷土芸能伝承活動支援					
	専門職員の適正配置と後継者の養成					
活動図書館	第3期子どもの読書推進計画策定					
社会体育活動	体育館利用者懇談会					
	調査・研究					
	スポーツ推進委員会					
	羅臼町のスポーツ・文化の在り方検討協議会					
	各種教育団体派遣助成事業（体育団体）					
郷土資料館活動	国指定重要文化財保護活用事業					
	天然記念物指定鳥類保護活動					
	道指定天然記念物保護活用事業					
	町指定文化財保護活用事業					
	埋蔵文化財保護活用事業					
	郷土資料館運営事業					
	文化財保護調査委員会					
	指定鳥類保護調査事業					

第6節 基盤整備（推進体制）

分野	推進項目	事業名	対象	関係機関
社会教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・研修等を通じて、地域ぐるみで子供たちを育てる意識の醸成を図る。 ・社会教育関係職員の適正配置と研修機会の充実を図る。 ・コミュニティースクールの学校区ごとに部会を設置し、部会を中心とした地学協働活動の推進を図る。 ・社会教育委員の知識向上のための研修機会の充実を図る。 ・学校行事補完事業の重要性を再認識し、子どもたちの学習機会を確保する。 ・地域講師人材の整理（リスト化等） 	社会教育委員の会	社会教育委員 兼図書館協議会	スポーツ推進委員会 文化財保護調査委員会
		学校行事補完事業	小・中学生	学校行事運営審議委員会
		各種教育団体派遣助成事業（文化団体）	小学生～高校生	社会教育関係団体
		コミュニティースクール（地学協働活動）	保護者 成人	学校運営協議会
		社会教育関係職員研修	社会教育関係職員	
芸術・文化活動	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職員の適正配置と、文化団体や芸術文化活動に取り組む町民を支援する推進体制を堅持する。 	各種団体との懇談会	芸術文化活動団体 かつての公民館 利用団体	文化団体・サークル等
		郷土芸能伝承活動支援	小学生～成人	小・中学校 知床いぶき樽保存会
		専門職員の適正配置と後継者の養成	—	
図書館活動	<ul style="list-style-type: none"> ・司書を適正配置し、図書館及び学校図書館運営の支援を行う推進体制をつくる。 	第3期 子どもの読書推進計画策定 (2025～2028年度)	乳幼児～少年	保健福祉課 各団体 高校 小・中学校 幼稚園 PTA

第6節 基盤整備（推進体制）

事業推進の年度別指標				
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
地域課題に関する主体的な学習の促進及び調査・研究、解決に向けた取組等による委員活動の活性化	第9次社会教育中期計画の反省評価の実施（令和9年度：第10次中期計画策定）			
小中学校と教育委員会による運営委員会の組織 少年芸術劇場、児童生徒美術書道展の開催	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
助成内容充実に向けた規則の見直しと予算の確保	継続	継続	継続	継続
各学校での授業等に講師として対応できる人材の確保	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
積極的な研修機会の確保による職員の資質の向上 社会教育主事、図書館司書の適正配置	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
各種既存施設等の有効活用及び利用促進など、関係者との懇談を行いながら活動の活発化を支援する。	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
郷土芸能「知床いぶき樽」の伝承活動の支援を行う。	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
社会教育主事等、専門職員の適正配置を理事者に要請するとともに、複数配置に向けて後継者の養成に努める。	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
子どもの読書活動を進める方向性を示す	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続

第6節 基盤整備（推進体制）

分野	推進項目	事業名	対象	関係機関
社会体育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・町民ニーズを把握しスポーツ振興を図る。 ・らいずと連携し冬季スポーツの提供を図る。 ・保健福祉行政と障がい者スポーツについて検討する。 ・町のスポーツ振興のため専門人材の活用を検討する。 ・羅白町のスポーツ・文化の在り方検討協議会で、推進体制などの方向性を確立させる。 	体育館利用者懇談会	体育館利用団体	羅白スポーツクラブらいず
		調査・研究	幼児～高齢者 障がい者	保健福祉課 社会福祉協議会 羅白スポーツクラブらいず
		スポーツ推進委員会	スポーツ推進委員	社会教育委員の会
		羅白町の文化・スポーツの在り方検討協議会	小学生～成人	羅白町のスポーツ・文化の在り方検討協議会
		各種教育団体派遣助成事業（体育団体）	小学生～高校生	社会教育関係団体
郷土資料館活動	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的な文化財の保護活動を実施する。 ・郷土資料の台帳を作成する。 ・知床いぶき樽の演奏映像の整理を図り、活用を検討する。 ・地域文化財保存活用計画の策定市町村への調査を実施する。 ・資料館運営体制の確保についても検討を図る。 ・日本遺産『鮭の聖地』の物語を構成する標津町、根室市、別海町と連携し、郷土資料館の周知及び利用促進を図る。 	国指定重要文化財保護活用事業		文化庁 北海道教育委員会
		天然記念物指定鳥類保護活動		文化庁 環境省 北海道教育委員会 オジロオオワシモニタリンググループ
		道指定天然記念物保護活用事業		北海道教育委員会 羅白のひかりごけ保存会
		町指定文化財保護活用事業		知床いぶき樽保存会 峯浜町町内会
		埋蔵文化財保護活用事業		文化庁 北海道教育委員会
		郷土資料館運営事業		文化財保護調査委員会 社会教育委員の会
		文化財保護調査委員会	文化財保護調査委員	社会教育委員の会
		指定鳥類保護調査事業	指定鳥類保護調査員	文化財保護調査委員会

第6節 基盤整備（推進体制）

	事業推進の年度別指標			
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
利用者団体からの意見聴取と反映	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
各スポーツ事業満足度アンケートの実施 スポーツニーズ把握のための調査・研究				ニーズに沿った施策の検討
地域のスポーツ課題に関する調査・研究及び事業協力	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
中学校部活動の地域移行をはじめとした羅臼町スポーツの在り方の検討	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
助成内容充実に向けた規則の見直しと予算の確保	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
地域文化財保存活用計画の策定市町村への調査	検証・継続	地域文化財総合活用 計画策定の検討		検証・継続
国指定天然記念物の調査・保護 オジロワシ等の各種モニタリング調査	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
間欠泉モニタリング調査 羅臼のひかりごけモニタリング調査	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
知床いぶき樽保存会への協力及び映像資料の整理	検証・継続	知床いぶき樽保存会への 協力及び映像資料作成 検討		検証・継続
埋蔵文化財包含地の保護 パトロール	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
アンケート調査の実施 周知方法の改善 収蔵資料の整備・台帳作成 資料館の通常運営	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
文化財の保護調査	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続
国指定天然記念物の新規調査方法の試行 オジロ・オオワシの一斉調査	検証・継続	検証・継続	検証・継続	検証・継続

第7節 基盤整備（施設）

【現状】

<社会教育活動>

- ・学校開放施設が3校に減少しても定期利用団体には影響がなく、これまで通りの利用となっている。
- ・学校開放利用申請の利便性向上のために、学校開放利用状況の共有や申請がWEB上で出来るアプリの試験的な導入を予定している。
- ・中学校の学校開放について、体育館以外の教室利用を検討している。
- ・公民館解体以降、住民の学習活動の拠点の確保が乏しい状況となっている。

<芸術・文化活動>

- ・文化団体から早急な施設（公民館）整備の要望があがっているが、現状では整備のめどが示されないため不満の声が聞こえている。文化団体の活動の衰退が著しいため、早急な施設整備の方向性を示す必要がある。

<図書館活動>

- ・役場町民ロビーに開設した図書館は、狭小な環境のため蔵書を開架できるスペースが少なく、利用者の求めに応じて分散した蔵書を図書館バスで取りに行く等、都度対応を行っているが、リクエストへの対応に時間を要している。
- ・旧釧路信組施設の取得により、これを図書館に転用（改築）することとなり、令和6年度に現状の役場町民ロビーからの引っ越しを行い、令和6年6月1日からのオープンが予定されている。
- ・羅臼町に関する記事のスクラップや郷土資料など、永年保存としている資料は、館内に資料のすべてを保管することができず、ほとんどを郷土資料館に保管している。今後も確実に増加し、保管場所のひっ迫が考えられる。
- ・現在、資料の更新（廃棄等）は、図書館司書の裁量で判断されている。判断根拠は、各図書館司書の専門的知識に依るが、人員が変われば判断基準も変わってしまうことが考えられる。

<社会体育活動>

- ・社会体育施設は公共施設管理計画通りに整備されているが、老朽化が著しいため満足な改修に至っていない。
- ・コロナ禍での利用停止期間もあり、各施設の利用者数は減少している。

<郷土資料館活動>

- ・郷土資料館は、昭和62年に建設され平成21年度に閉校となった植別小中学校を再活用して、平成23年度に開館している。施設は老朽化による修繕が必要であるが、町の公共施設管理計画に沿って大規模な改修及び修繕を図っている。また、突発的な修繕については、その内容により修繕もしくは応急的な修繕を図っている。
- ・また、令和元年度に文化庁が策定した「国宝・重要文化財（美術工芸品）を保管する博物館等の防火対策ガイドライン」に沿って、必要な設備を整備している。
- ・国道に面していないという立地から、場所のわかりにくさについて、来館者等から指摘がある。

【課題】

<社会教育活動>

- (1)各団体が活動を継続できるような施設利用の調整を図る。
- (2)学校開放事業の利便性向上に向けて、アプリの活用と従来の申請方法との比較をしながらより良い施設利用の提供方法を模索する。
- (3)中学校の学校開放について、利用可能教室の範囲の協議を進める必要がある。
- (4)町民の学習活動の拠点である生涯学習施設の整備に関する方向性について議論する必要がある。

<芸術・文化活動>

- (1)専門職員の配置も含めた施設整備を早急に進める必要がある。
- (2)生涯学習施設の整備について、具体的な方向性を示し、文化団体や以前の公民館利用団体等と連携して整備計画（機能・設備・備品等）についてまとめる必要がある。
- (3)既存施設（学校開放や町内会館など）の利用促進による活動の継続・活性化を図る必要がある。

<図書館活動>

- (1)新図書館に集約できなかった蔵書の保管場所の確保及び収容余力を残した棚づくりが必要である。
- (2)郷土資料をはじめ、年々増加していく蔵書を配架・保存していく場所の確保が必要である。
- (3)町民が使いやすい蔵書検索システムの維持及び更新が必要である。
- (4)蔵書の更新（廃棄等）に関する基準（規則）の整備を行う必要がある。
- (5)一人でも子ども連れでも、図書館でゆったりとした時間が過ごせる空間づくりを検討する必要がある。
- (6)高齢者が利用しやすい館内環境を整備していく必要がある。

<社会体育活動>

- (1)スポーツ活動が安定して継続できるよう社会体育施設の点検を強化する必要がある。
- (2)社会体育施設の有効活用についてのニーズを把握する必要がある。

<郷土資料館活動>

- (1)計画的な改修及び修繕を図っていく必要がある。
- (2)廃校を再活用した施設であるため、交通の便が悪く場所がわかりにくいことから、改善について検討を図る必要がある。

第7節 基盤整備（施設）

【推進項目】

<社会教育活動>

- *施設の老朽化に対応した維持管理と計画的な修繕・整備を図る。
- *施設の利用促進や利用者の利便性向上のためのデジタル化等の推進を図る。
- *学校開放の利用可能教室の拡充と会議や講座開催も含めた利用促進を図る。
- *生涯学習施設の整備について、関係団体との協議を継続して行う。

<芸術・文化活動>

- *文化団体との懇談・情報交換等を継続し、生涯学習施設整備に関する基本構想作りに着手する。
- *市内における文化施設（生涯学習施設）整備に関する検討を行う。
⇒町としての施設整備に関する方向性（考え方）についてまとめる

<図書館活動>

- *資料整備及び蔵書検索機能の継続と充実を図る。
- *蔵書の更新（廃棄等）に関する基準（規則）の整備を図る。
- *多様化する図書館での過ごし方に対応した館内環境整備を図る。

<社会体育活動>

- *社会体育施設の有効活用について、関係団体と協議する。
- *施設管理委託業者の日々の業務報告の中に施設点検を加え、施設の状態を確認する。

<郷土資料館活動>

- *施設の計画的な改修及び修繕を図る。
- *施設の周辺環境について改善方法を検討する。

【事業ごとの SDGs 対応表】

領域	事業名	特に関連する SDGs 項目			
芸術・文化活動 社会教育活動	学校開放事業 (自主管理運営方式)				
	文化団体をはじめ各種団体との懇談・情報交換等の実施				
	生涯学習施設整備に関する 「基本構想」づくり				
図書館活動	図書資料整備事業				
	蔵書検索システムの継続				
	オンラインシステムを活用した情報発信				
	図書館施設の有効活用				
	図書館資料除籍基準（規則）策定				
	図書館の維持管理				
社会体育活動	体育施設の維持・管理				
	町内施設の有効活用				
活動 郷土資料館	郷土資料館管理事業				

第7節 基盤整備（施設）

分野	推進項目	事業名	対象	関係機関
社会教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化に対応した維持管理と計画的な修繕・整備を図る。 施設の利用促進や利用者の利便性向上のためのデジタル化等の推進を図る。 学校開放の利用可能教室の拡充と会議や講座開催も含めた利用促進を図る。 生涯学習施設整備に関する基本構想づくりに向けて各種団体との懇談・情報交換等を継続する。 町内における文化施設（生涯学習施設）整備に関する方向性を検討する。（町としての施設整備に関する方向性・考え方をまとめる。 	学校開放事業 （自主管理運営方式）	グループ サークル	羅白小学校 春松小学校 知床未来中学校 学校開放運営委員会
芸術・文化活動	<ul style="list-style-type: none"> 町内における文化施設（生涯学習施設）整備に関する方向性を検討する。（町としての施設整備に関する方向性・考え方をまとめる。 	文化団体をはじめ各種団体との懇談・情報交換等の実施	青年～高齢者	文化協会 社会教育委員の会 社会教育団体
		生涯学習施設整備に関する「基本構想」づくり	町民全般	文化協会 社会教育委員の会 社会教育団体
図書館活動	<ul style="list-style-type: none"> 資料整備及び蔵書検索機能の継続と充実を図る 蔵書の更新（廃棄等）に関する基準（規則）の整備を図る 多様化する図書館での過ごし方に対応した館内環境整備を図る。 	図書資料整備事業	乳幼児～高齢者	
		蔵書検索システムの継続	乳幼児～高齢者	
		オンラインシステムを活用した情報発信	乳幼児～高齢者	
		図書館施設の有効活用		
		図書館資料除籍基準（規則）策定		
		図書館の維持管理		
社会体育活動	<ul style="list-style-type: none"> 整備計画作成のため、関係団体との協議を行う。 社会体育施設の利活用について、関係団体と協議する。 委託業者の日々の業務報告の中に、施設点検を加え、施設の状態を確認する。 	体育施設の維持・管理		
		町内施設の有効活用		各団体
郷土資料館活動	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な改修及び修繕を図る。 施設の環境について改善方法を検討する。 	郷土資料館管理事業		文化財保護調査委員会 社会教育委員の会

第7節 基盤整備（施設）

事業推進の年度別指標				
令和6年度		令和7年度	令和8年度	令和9年度
<p>学校開放運営委員会の充実</p> <p>学校開放の利便性向上と利用可能教室の拡充</p>		検証・継続	検証・継続	検証・継続
<p>文化団体や各種団体との懇談・情報交換を行いながら、今後、羅臼町に求められる社会教育（生涯学習）施設の機能等に関する基本的な構想をまとめる。</p>			検証・継続	検証・継続
			検証・継続	検証・継続
<p>町民の要求に応じたきめ細かな対応</p>		検証・継続	検証・継続	検証・継続
<p>町民の利便性を保持し、図書館活動の推進</p>		検証・継続	検証・継続	検証・継続
<p>システム内のページを活用した図書情報の発信</p>		検証・継続	検証・継続	検証・継続
<p>多様化する図書館での過ごし方に対応した館内環境整備</p>		検証・継続	検証・継続	検証・継続
<p>資料の除籍に関する方針を検討する</p>		<p>資料の除籍に関する方針を示す</p>	検証・継続	検証・継続
<p>図書館の維持管理</p>		検証・継続	検証・継続	検証・継続
<p>老朽化したスポーツ施設の計画的な修繕・障がい者を意識した整備及び適正な維持管理 スポーツ施設の効果的な管理運営</p>		検証・継続	検証・継続	検証・継続
<p>ニーズにあった施設の有効活用</p>				検証・継続
<p>公共施設管理計画に沿った施設の改修・修繕 軽微な改修・修繕</p>		検証・継続	検証・継続	検証・継続

【現状】

<社会教育活動>

- ・団体の自主自立を目指し、継続的な支援を行いながら、指導者の発掘及び育成に努めている。
- ・自主自立が進んでいる団体には、必要に応じて支援や助言を行っている。
- ・自主自立が進んでいない団体には、団体活動が衰退しないよう継続的に支援及び指導を行っているが、体制的には自立をしていても一部の運営を行政が担っている状況も垣間見える。
- ・人口減少等により団体活動が衰退してきている。

<芸術・文化活動>

- ・芸術・文化活動は、ともすると個人的な趣味嗜好といった偏った捉え方をされがちなこともあり、予算や人員等の事情から行政的な支援が手薄になる傾向にあるが、ゆとりと潤いを実感できる心豊かな生活の実現には欠かせないものであり、また、グループ・サークルによる活動は、地域に学びのコミュニティ（学習縁）を創出し、学習する者同士のつながりによる地域の連帯感の形成においても重要な意味を持つと考える。
- ・羅臼町では以前より文化協会を中心に公民館を拠点として芸術・文化活動が活発に行われてきたが、耐震基準を満たしていないことを理由に平成31年に公民館が取り壊しとなって以降、コロナ禍の影響もあり、芸術・文化に係るグループ・サークルの活動が停滞し、併せて活動者の固定化や高齢化、新規加入者の減少等により休止状態或いは解散する団体も顕著となっている。令和5年度当初の文化協会加盟団体は9団体となっており、芸術・文化の振興に向けた施策の検討・展開が急務となっている。

<図書館活動>

- ・図書館に関わる団体に関しては、2つのサークルと学校ボランティアがあり、各サークルはそれぞれ自立しているため、必要に応じて図書館と連携しながら活動を行っている。学校ボランティアに係る読み聞かせの本の選書協力を図書館が行っているが、活動自体はボランティア独自で行っている。

<社会体育活動>

- ・高校卒業後、子ども達の町外転出が多く、指導者養成に繋がらない状況がある。
- ・スポーツ指導者との情報交換の場がない。
- ・中学校部活動の地域移行の協議会が設置され、今後のスポーツの在り方が検討されており、各種スポーツ指導者の発掘・養成が急務となっている。

【課題】

<社会教育活動>

- (1) 自主自立に向けた具体的且つ継続的な指導、助言を通して人材の育成を図る。また、役員交代などの状況変化に応じて、効果的な指導、助言が必要である。
- (2) 団体活動について、団体の意義や目的をしっかりと認識した上で、事業運営などに主体的に取り組むよう促す仕掛けが必要である。
- (3) 町の状況や将来推計に合わせて、持続可能な団体活動とするための方策の検討が必要である。

<芸術・文化活動>

- (1)既存団体の現状を把握し、日常活動の活発化の促進（やる気の醸成）と合わせ、新たな活動者を発掘する（つなぐ）ための団体と連携した教室・講座等の開催を促進・支援する必要がある。
- (2)新たな町民ニーズに応じ、町外からの講師招聘も視野に教室・講座・講習会等を企画・開催する必要がある。

<図書館活動>

- (1) 今後も各団体と情報交換・共有を綿密に行い、継続して連携していく必要がある。

<社会体育活動>

- (1)スポーツ活動を維持していくため指導者発掘、養成が急務である。
- (2)定期的なスポーツ指導者との懇談を図る必要がある。
- (3)スポーツ指導者の研修会の提供を図る必要がある。

【推進項目】

<社会教育活動>

- * 団体の活動への支援、指導及び助言を通して人材育成を図る。
- * 団体の自主自立に向けた支援を継続的に行う。
- * 団体が主催する事業を始めとした活動に対し、積極的且つ自主的に取り組むよう指導助言を行う。
- * 各団体の状況を調査し、ニーズや課題を把握するとともに解決に向けた事業の推進を図る。

<芸術・文化活動>

- * 文化団体・グループ等と連携した教室・講座などを開催する。
- * 新たなニーズに対応した芸術・文化活動への導き・支援を行う。

<図書館活動>

- * 読み聞かせサークル等の継続的な支援を図る。

<社会体育活動>

- * スポーツ活動が継続できるよう指導者の発掘・養成に取り組む。
- * スポーツ指導者懇談会を開催する。
- * 羅臼町のスポーツ・文化の在り方検討協議会で推進体制などの方向性を確立する。
- * 競技スポーツ推進のため、著名な講師等を招聘したスポーツ教室を開催する。

第8節 団体育成・指導者養成

【事業ごとのSDGs対応表】

領域	事業名	特に関連するSDGs項目			
活動 社会教育	社会教育関係団体の支援				
芸術・文化活動	各種教室・講座、相談事業				
	新たな創作活動の振興（講師招聘事業）				
図書館活動	読み聞かせサークル・学校ボランティアへの支援				
社会体育活動	体育協会加盟団体の育成及び支援				
	スポーツ少年団加盟団体の育成及び支援				
	総合型地域スポーツクラブとの連携及び支援				
	地域スポーツ指導者の発掘及び養成				

【社会教育事業の様子】

羅臼町子ども会育成協議会 【ふるさと少年探険隊】



羅臼町女性団体連絡協議会 【北海道女性大会・根室地方大会】



羅臼町スポーツ協会 【クナシリ眺望駅伝競走大会】



第8節 団体育成・指導者養成

分野	推進項目	事業名	対象	関係機関
社会教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・団体の活動への支援、指導及び助言を通して人材育成を図る。 ・団体の自主自立に向けた支援を継続的に行う。 ・団体が主催する事業を始めとした活動に対し、積極的且つ自主的に取り組むよう指導助言を行う。 ・各団体の状況を調査し、ニーズや課題を把握するとともに解決に向けた事業の推進を図る。 	社会教育関係団体の支援	社会教育関係団体	女性団体連絡協議会 子ども会育成協議会 PTA 連合会 文化協会 知床いぶき樽保存会（休会中） スポーツ協会 スポーツ少年団 羅臼スポーツクラブらいず
芸術・文化活動	<ul style="list-style-type: none"> ・文化団体・グループ等と連携した教室・講座などを開催する。 ・新たなニーズに対応した芸術・文化活動への導き・支援を行う。 	各種教室・講座 相談事業	青年～高齢者 5名以上のグループ	各種団体
		新たな創作活動の振興 (講師招聘事業)	青年～高齢者	文化団体
図書館活動	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせサークル等の継続的な支援を図る。 	読み聞かせサークル・学校 ボランティアへの支援	読み聞かせサークル 学校ボランティア	小学校
社会体育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ活動が継続できるよう指導者の発掘・養成に取り組む。 ・スポーツ指導者懇談会を開催する。 ・羅臼町のスポーツ・文化の在り方検討協議会で推進体制などの方向性を確立する。 ・競技スポーツ推進のため、著名な講師等を招聘したスポーツ教室を開催する。 	スポーツ協会加盟団体の 育成及び支援	スポーツ協会加盟団体	スポーツ協会
		スポーツ少年団加盟団体の 育成及び支援	スポーツ少年団加盟団体	スポーツ少年団本部
		総合型地域スポーツ クラブとの連携及び支援	羅臼スポーツ クラブらいず	スポーツ協会 スポーツ少年団本部
		地域スポーツ指導者の 発掘及び養成	青年～高齢者	スポーツ協会 スポーツ少年団本部 羅臼スポーツクラブらいず

事業推進の年度別指標				
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
活動補助金確保 各団体の状況及びニーズ、 課題の把握 自主自立の活動に対する支 援と協力 団体が主催する事業の連携		検証・継続	検証・継続	検証・継続
※青年教育参照		検証・継続	検証・継続	検証・継続
※成人教育参照		検証・継続	検証・継続	検証・継続
求めに応じ研修機会の提供 や支援		検証・継続	検証・継続	検証・継続
自主的で活発な活動の促進		検証・継続	検証・継続	検証・継続
少年団活動の支援 子どもの体力向上事業の推 進 各種指導者養成事業・リー ダー研修会の開催及び参加 奨励 活動実態の調査・研究		検証・継続	検証・継続	検証・継続
クラブ主催事業との連携及 び支援 永続的な活動・運営のため の支援		検証・継続	検証・継続	検証・継続
各種指導者研修会、ニュー スポーツ講習会等の実施や 参加奨励 ニーズに応じた生涯スポ ーツにつながる各種資格認定 制度の情報提供		検証・継続	検証・継続	検証・継続

= 資料編 =

羅臼町第9次社会教育中期計画策定委員会名簿

【策定委員会】

	役 職	氏 名	所 属
1	策定委員長	田 中 英 輔	社教委員兼図書協
2	策定副委員長	野 祥 子	〃
3	社会教育活動部会 部会長	中 谷 洋 平	〃
4		濱 澤 位	〃
5		板 倉 道 子	〃
6	芸術文化活動部会 部会長	大 友 敏 春	〃
7		村 椿 洋 輔	〃
8		四ツ屋 由紀子	〃
9		高 原 博 幸	〃
10	社会体育活動部会 部会長	西 田 威 嗣	〃
11		吉 田 正 一	スポーツ推進委員
12		藤 本 哉	〃
13		野 喬 暢	〃
14	郷土資料館活動部会 部会長	山 中 伸 行	文化財保護調査委員
15		大 西 千 恵 美	〃

【社会教育活動部会】

役 職	氏 名	所 属	
部会長	中 谷 洋 平	社教委員兼図書協	委員
	濱 澤 位	〃	〃
	板 倉 道 子	〃	〃
	田 中 英 輔	〃	副委員長

【芸術・文化活動部会】

役 職	氏 名	所 属	
部会長	大 友 敏 春	社教委員兼図書協	委員
	村 椿 洋 輔	〃	〃
	高 原 博 幸	〃	〃
	四ツ屋 由紀子	〃	〃

【社会体育活動部会】

役 職	氏 名	所 属	
部会長	西 田 威 嗣	社教委員兼図書協	委員
	吉 田 正 一	スポーツ推進委員	委員長
	野 喬 暢	〃	副委員長
	藤 本 哉	〃	委員

【郷土資料館活動部会】

役 職	氏 名	所 属	
部会長	山 中 伸 行	文化財保護調査委員	委員長
	大 西 千恵美	”	委員
	野 祥 子	社教委員兼図書協	副委員長

【事務局】

役 職	氏 名	所 属	
事務局 長	野 田 泰 寿	羅臼町教育委員会 社会教育課	社会教育課長兼図書 館長兼郷土資料館長
事務局次長	吉 田 盛 一	羅臼町教育委員会 社会教育課	社会教育係長 兼スポーツ振興係長 兼図書係長
	天 方 博 章	羅臼町教育委員会 郷土資料館	文化財保護係長 (学芸員)
事務局員	中 田 靖	羅臼町教育委員会 学務課	社会教育指導班長
”	黒 田 恭 子	羅臼町教育委員会 図書館	図書司書
”	佐 藤 大 誠	羅臼町教育委員会 社会教育課	書記
”	三 好 浩 斗	”	書記
”	長 川 美 優	”	書記

【策定スケジュール】

年 月 日	会 議 名
令和5年 4月12日	第1回社会教育委員の会兼図書館協議会 ・計画策定の諮問依頼、中期計画策定委員の選考、スケジュールの提案
4月25日	第9次社会教育中期計画 第1回策定委員会 ・全体会：委員委嘱、計画策定スケジュール及び専門部会の確認
6月22日	第1回郷土資料館活動部会
7月5日	第1回社会体育活動部会
7月6日	第1回芸術・文化活動部会
7月10日	第1回社会教育活動部会
11月2日	第2回社会体育活動部会
11月6日	第2回郷土資料館活動部会
11月8日	第2回芸術・文化活動部会
11月14日	第2回社会教育活動部会
11月20日	第9次社会教育中期計画 第2回策定委員会 ・「現状」と「課題」、推進項目、アクションプログラムの確認
12月21日	第2回社会教育委員の会兼図書館協議会 ・羅臼町第9次社会教育中期計画の進捗状況の報告
令和6年 2月7日	第9次社会教育中期計画第3回策定委員会 ・総論、社会教育中期計画の目指すもの、4か年の重点事項の整理
2月19日	第3回社会教育委員の会兼図書館協議会 ・答申（案）の最終調整
2月26日	教育長へ答申書を提出
2月28日	教育委員会へ報告

羅臼町第9次社会教育中期計画

2024年度～2027年度
(令和6年度～令和9年度)

2024年3月発行

発行：羅臼町教育委員会

目梨郡羅臼町栄町100番地83

TEL 0153-87-2004

